

2019年参議院議員選挙における投票行動と情報行動

A Survey on Information Behavior and Voting Behavior
in the 2019 House of Councillors Election

長濱 憲 NAGAHAMA, Ken 小笠原 盛浩 OGASAHARA, Morihiro
河井 大介 KAWAI, Daisuke 橋元 良明 HASHIMOTO, Yoshiaki

目次

0. 調査の概要	
0.1 調査の目的	橋元 良明
0.2 方法、概要	河井 大介
1. 投票行動	
1.1 投票行動（事後問1、事後問2）	河井 大介
1.2 投票先の政党（事後問3、事後問4）	長濱 憲
1.3 投票の基準（事後問5）	長濱 憲
1.4 投票先決定時期（事後問6）	長濱 憲
2. 選挙運動期間中のメディア接触	
2.1 メディアへの接触（事後問25）	長濱 憲
2.2 SNS への接触（事後問32）	長濱 憲
2.3 ネットニュースへの接触（事後問33）	長濱 憲
2.4 政党サイト・SNS への接触（事後問34）	小笠原 盛浩
2.5 候補者ウェブサイト・SNS への接触、SNS で見た選挙関連の話題 （事後問35、事後問36）	小笠原 盛浩
3. 役に立った情報源、信頼できた情報源	
3.1 役に立った情報源（事後問26）	河井 大介
3.2 信頼できた情報源（事後問27）	河井 大介
4. 重視争点	
4.1 重視した争点（事後問20、事後問21）	長濱憲
4.2 争点に接触した情報源（事後問22）	長濱 憲

4.3 争点に関する安倍政権の取り組みへの評価(事後問23)	長濱 憲
5. 争点への態度	
5.1 争点への態度(事前問14、事後問24)	河井 大介
5.2 投票の有無による争点への賛否	河井 大介
5.3 争点への態度の変化	河井 大介
6. 支持政党(事後問9、事後問10)	長濱 憲
7. メディアの信頼性評価(事後問28)	長濱 憲
8. 社会・政治に対する考え方(事後問8)	長濱 憲
9. 政治的有効性感覚(事後問7)	長濱 憲
10. 政治知識	
10.1 政治の仕組みに関する知識(事前問15、事前問16、事前問17、事前問19)	長濱 憲
10.2 政党政治の動向に関する知識(事前問23、事後問13)	長濱 憲
10.3 政治リーダーに関する知識(事前問24、事後問14)	長濱 憲
10.4 選挙中の争点に関する知識(事前問25、事前問26、事前問27、事前問28、事前問29、事後問15、事後問16、事後問17、事後問18、事後問19)	長濱 憲
11. フェイクニュースへの接触(事後問37)	小笠原 盛浩
<補足資料> 質問票と単純集計結果	河井 大介

長濱 憲 東京大学大学院学際情報学府博士課程

小笠原 盛浩 東洋大学社会学部・社会学研究科

河井 大介 東京大学大学院情報学環

橋元 良明 東京大学大学院情報学環

なお、本研究は、公益財団法人電気通信普及財団による2018年度研究調査助成を受けて実施された。

0. 調査の概要

0.1 調査の目的

第25回参議院選挙は2019年7月24日に実施された。

第二次安倍政権が発足してから6年半あまり経過し、対抗馬となりうる強力な野党や指導者も出現しないまま、与党はこれまでの安定した勢力を維持し続けることができるのか。自民党が勝利を収めたとしても国民の多数の支持が得られるのかどうか、が最大の焦点と言ってよい選挙であった。

個別には、(1)憲法改正を目指す安倍政権が、その重要なステップとして、参議院全体で過半数を維持できるのか、(2)選挙後の10月に予定されている消費税率引き上げについて国民が是とするのか、(3)年金や社会保障制度の改革について国民の支持が得られているのか、等も重要な争点になっていた。

さらに前回の2016年の参議院選挙から選挙権が18歳に引き下げられたが、初回の24回参議院選挙こそ10代で46.8%の投票率を得たが、その後の2017年の衆議院選では40.5%に低下した。果たして19年度参議院選挙では若年層の関心を引き戻すことができるのか等も話題となっていた。

こうした情勢下で、我々は以下のような問題意識をもってネットを通じたアンケート調査を実施した。

(ア)自由民主党は引き続き高い支持率を維持できるのか。支持する層はどのような層か。

(イ)憲法改正や消費税率引き上げ等の争点に関し、国民はどの程度の関心を持ち、またどのような意見を持っているのか。

(ウ)選挙権の年齢引き下げ以降、若年層の政治関心、投票意向はどのように変化したのか。

(エ)若年層において選挙期間中のネットの利用、とくにソーシャルメディアの利用に、他の年齢層と異なった特徴はみられるのか。

(オ)全体的に保守化が進んでいると言われる状況で、各年齢層ごとに投票先政党、支持政党にどのような傾向がみられるか。

0.2 方法、概要

2019年7月21日投票の第25回参議院議員選挙において、選挙公示前と投票終了直後に、同一サンプルに対してインターネットをもちいたパネル調査を行った。調査は株式会社マクロミルのモニターで18～69歳の男女に対し、18～19歳、20歳以上では10歳刻み、男女の12セルで、18～19歳を20歳以上の10歳刻みのサンプルサイズの5分の1となるようにクォーターサンプリングを行った。実査は、参議院議員選挙の公示前の2019年7月2日(火)～3日(水)に事前調査を行い、投票終了直後の2019年7月21日(日)20時～22日(火)に事後調査を実施し1,610サンプルを回収した。その性・年齢層別の分布を表0.2.1に示す。

表0.2.1 クォータごとの回収数(人)

(人)	18-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	合計
女性	31	152	158	154	155	154	804
男性	30	155	156	155	154	156	806
合計	61	307	314	309	309	310	1,610

質問項目は、投票行動、政治関心、支持政党、メディアの利用、争点重要性、知識度などで、事前調査で32問、事後調査で37問である。

1. 投票行動

1.1 投票行動

1.1.1 投票率

投票行動について、2016年7月の参議院議員選挙と2017年10月の衆議院議員選挙の際に投票したか（事前調査問5）、今回の2019年参議院議員選挙で投票に行ったか（事後問1）を質問した。それぞれの投票した人の比率（投票率、「選挙権がなかった」と「覚えていない」を除く）を示したものが表1.1.1である。

今回の調査での全体での投票率は、2016年参院選で72.8%、2017年衆院選で72.7%、今回の2019年参院選で69.1%であった。いずれも、総務省の公表している投票率よりも高い点には注意が必要である。属性別では、いずれの選挙においても、性別で男性が女性よりも高く、年齢層別では、いずれの選挙でも一貫して50代60代が高く、18-29歳および30代が低い傾向がみられた。

表 1.1.1 2016年参院選、2017年衆院選、2019年参院選での投票した人の比率

	2016年参院選			2017年衆院選			2019年参院選（今回）			
	n	投票率	χ^2 値 p値	n	投票率	χ^2 値 p値	n	投票率	χ^2 値 p値	
全体	1274	72.8%		1321	72.7%		1604	69.1%		
性別	女性	614	67.9%	14.54	635	68.3%	11.52	802	64.5%	15.98
	男性	660	77.4%	0.0001	686	76.7%	0.0007	802	73.7%	<.0001
年齢層	18-29歳	199	52.8%	88.48	230	55.2%	88.84	366	56.3%	74.59
	30-39歳	251	64.1%	<.0001	252	63.1%	<.0001	313	63.9%	<.0001
	40-49歳	263	73.0%		272	72.4%		308	67.2%	
	50-59歳	271	79.7%		276	80.1%		307	75.6%	
	60-69歳	290	87.6%		291	88.0%		310	84.8%	

※「選挙権がなかった」と「覚えていない」は欠損値。

※ χ^2 値およびp値は、 χ^2 検定の結果。

※性別は χ^2 検定の結果、年齢層別は残差分析の結果、黒太字： $p < .05$ で有意に高く、赤太字： $p < .05$ で有意に低いことを示す。

1.1.2 選挙期間中のメディア利用と投票行動との関連

次に選挙期間中のメディア利用と投票行動にどのような関連があるのか確認した。まず、投票行動に関連がある項目として、男性ダミー（女性=0、男性=1）、年齢、ふだんの政治的関心（事前調査問9（1）、「そう思う」を5、「ややそう思う」を4、「どちらともいえない」を3、「あまりそう思わない」を2、「そう思わない」を1）を統制変数、ネットでの選挙情報接触有無（事後調査問25（6）（7）（8）（9）（10）（11）（12）（13）のうち1つでも選挙期間中に1回以上接した人を1、そうでない人

を0)、テレビでの選挙情報接触有無（事後調査問 25(1)で選挙期間中に1回以上接した人を1、そうでない人を0)、新聞での選挙情報接触有無（事後調査問 25(2)で選挙期間中に1回以上接した人を1、そうでない人を0)、友人・家族との選挙関連会話有無（事後調査問 25(15)(16)のいずれかで選挙期間中に1回以上した人を1、そうでない人を0)を説明変数とし、投票の有無を目的変数とし、全年齢層および年齢層ごとのロジスティック回帰分析を行った（表 1.1.2）。

表 1.1.2 メディア接触と投票行動の関連を示すロジスティック回帰分析

	全体	18-29 歳	30-39 歳
N	1604	366	313
男性ダミー	0.0048	0.0726	0.1086
年齢	0.2255 ***		
政治関心	0.3620 ***	0.2396 ***	0.3683 ***
ネットでの選挙情報接触有無	0.1311 ***	0.1767 *	0.1292 †
テレビでの選挙情報接触有無	0.0421	0.0766	0.1046
新聞での選挙情報接触有無	0.1610 ***	0.1064	0.1034
友人・家族との選挙関連会話有無	0.1324 ***	0.2138 **	0.0583
Wald χ^2	268.3196 ***	61.4998 ***	46.8289 ***

	40-49 歳	50-59 歳	60-69 歳
N	308	307	249
男性ダミー	-0.0883	-0.0035	-0.1099
政治関心	0.3958 ***	0.3650 ***	0.5604 ***
ネットでの選挙情報接触有無	0.1214	0.1396	0.0400
テレビでの選挙情報接触有無	-0.1402 †	0.1386 †	-0.0215
新聞での選挙情報接触有無	0.2171 **	0.1965 *	0.2207 *
友人・家族との選挙関連会話有無	0.0505	0.0113	0.3190 **
Wald χ^2	38.8658 ***	46.0520 ***	50.1771 ***

※数値は標準化推定値。

※数値横の記号は、***: $p < .001$ 、** : $p < .01$ 、* : $p < .05$ 、† : $p < .10$ であることを示す。

分析の結果、全体では、新聞、友人・家族、ネット（いずれも 0.1%水準）に正の関連がみられた。年齢層別でみた場合、18-29 歳では、友人・家族（1%水準）、ネット（5%水準）で正の関連がみられ

た。30代では10%水準ではあるがネットで正の関連がみられたが、それ以外のメディアでは10%水準でも有意な関連はみられなかった。40代では新聞(1%水準)で正の関連がみられ、10%水準ではあるがテレビで負の関連がみられた。50代では新聞(5%水準)で正の関連がみられ、10%水準ではあるがテレビでも正の関連がみられた。60代では友人・家族(1%水準)、新聞(5%水準)で正の関連がみられた。

さらに、投票に行かなかった人に対して、その理由を単一選択式で確認している。全体・性別・年齢層別の有無別の投票に行かなかった理由を分析した結果が表1.1.3である。全体では「時間がなかったから」(22.0%)が最も高く、次いで「関心がなかったから」(20.8%)、「選択したい候補者がいなかったから」(19.8%)が続く。性別では χ^2 検定の結果、有意な関連はみられなかった。年齢層別では、他の年齢層と比べて18-29歳で「時間がなかったから」「面倒だったから」が高く、「選択したい候補者がいなかったから」「投票しても結果に大きな影響を及ぼすと思わなかったから」が低い。これは政治的な情勢よりもむしろプライベートを優先させた結果であろう。また、他の年齢層と比べて30-39歳は「投票しても結果に大きな影響を及ぼすと思わなかったから」が高く、政治的有効性感覚が低い可能性がある。また、他の年齢層と比べて60-69歳は「選択したい候補者がいなかったから」が高く、政治情勢によるものであろう。

表 1.1.3 投票しなかった人の理由

	全体	性別		年齢層別				
		女性	男性	18-29	30-39	40-49	50-59	60-69
	N 496	285	211	160	113	101	75	47
関心がなかったから	20.8	20.7	20.9	23.1	15.0	26.7	18.7	17.0
時間がなかったから	22.0	21.1	23.2	28.1	21.2	19.8	16.0	17.0
選択したい候補者がいなかったから	19.8	18.6	21.3	13.8	18.6	20.8	24.0	34.0
どの政党・候補者に投票するか判断に迷ったから	6.7	8.8	3.8	6.9	5.3	6.9	6.7	8.5
面倒だったから	10.3	9.8	10.9	14.4	9.7	9.9	6.7	4.3
投票しても結果に大きな影響を及ぼすと思わなかったから	12.9	12.3	13.7	6.3	21.2	12.9	17.3	8.5
その他	7.7	8.8	6.2	7.5	8.8	3.0	10.7	10.6
		χ^2 値=6.66		χ^2 値=41.56*				

※ χ^2 値は χ^2 検定の結果。 χ^2 値横の記号は、*： $p<.05$ で有意であることを示す。

※年齢層別は残差分析の結果、黒太字： $p<.05$ で有意に高く、赤太字： $p<.05$ で有意に低いことを示す。

1.2 投票先の政党

事後調査問3で、選挙区での投票先について単数回答で質問した（表1.2.1）。対象者は、事後調査問1で「投票した」を選択した人（n=1,108）である。選挙区の投票先の政党は、上位から自由民主党（36.9%）、立憲民主党（16.4%）、日本維新の会（10.8%）の順番だった。

カイ二乗検定と残差分析の結果、性別で見ると「自由民主党」と「その他の政党」で男性の割合が有意に高かった。一方、「政党名は覚えていない」「記入していない」では、女性の割合が有意に高い結果となった。

年齢層別に見ると、「自由民主党」で30代、「日本共産党」で60代の割合が有意に高かった。「立憲民主党」は60代と50代が有意に高く、「政党名は覚えていない」は10・20代で有意に高かった。「自由民主党」と、「立憲民主党」「日本共産党」とでは、投票の割合が高い年齢層が異なる状況が示された。

表 1.2.1 投票先政党（選挙区）（事後問3） ※単数回答

	全体	性別		年齢層				
		男性	女性	10・20代	30代	40代	50代	60代
自由民主党	36.9%	39.8%	33.7%	34.0%	45.5%	41.5%	33.6%	31.9%
立憲民主党	16.4%	16.2%	16.6%	14.1%	10.5%	13.0%	20.7%	21.7%
日本維新の会	10.8%	10.8%	10.8%	7.8%	12.5%	8.7%	10.8%	13.7%
政党名は覚えていない	6.9%	5.2%	8.7%	13.1%	6.5%	6.3%	6.0%	3.4%
無所属	5.3%	5.6%	5.0%	3.9%	6.0%	4.8%	6.9%	4.9%
日本共産党	4.9%	4.1%	5.8%	4.4%	3.0%	4.8%	3.9%	7.6%
国民民主党	4.7%	4.7%	4.6%	7.3%	6.0%	4.8%	2.6%	3.4%
公明党	4.5%	4.1%	5.0%	3.9%	3.5%	4.3%	5.6%	4.9%
れいわ新選組	3.1%	3.0%	3.1%	3.4%	2.5%	4.3%	2.2%	3.0%
記入していない	3.0%	2.0%	4.1%	3.4%	1.0%	4.3%	4.3%	1.9%
その他の政党	2.7%	3.7%	1.5%	3.4%	2.5%	2.4%	2.6%	2.7%
社会民主党	0.8%	0.7%	1.0%	1.5%	0.5%	0.5%	0.9%	0.8%
n	1108	591	517	206	200	207	232	263
p値	-	0.061		0.007				
有意水準	-	†		**				

※有意水準の欄について、カイ二乗検定の結果、**はp<.01で有意、†はp<.1で有意傾向であることを表す。
※表中の太字は、残差分析の結果、p<.05で有意であることを表す。黒字は正、赤字は負を表す。

さらに事後調査問4で、比例代表選挙の投票先についても単数回答で質問を行った（表1.2.2）。対象者は同じく、事後調査問1で「投票した」を選択した人（n=1,108）である。

比例代表選挙の投票先は、上位から自由民主党（32.6%）、立憲民主党（16.2%）、日本維新の会（14.4%）の順番だった。

カイ二乗検定と残差分析の結果、性別では「自由民主党」は男性の割合が有意に高かった。「日本共産党」と「無所属」は女性の割合が有意に高かった。

年齢層別で見ると、「立憲民主党」は50代と60代、「日本維新の会」「日本共産党」「社会民主党」は60代、「れいわ新選組」は40代での投票率が有意に高かった。「政党名は覚えていない」は10・20代、「記入していない」は50代で回答の比率が高かった。

この分析の結果から、「れいわ新選組」は40代、「立憲民主党」「日本維新の会」「日本共産党」「社会民主党」は高齢層において投票先の割合が高く、政党によって投票割合が高い年齢層が異なることが示された。

表 1.2.2. 投票先の政党（比例代表）（事後問4） ※単数回答

	全体	性別		年齢層				
		男性	女性	10・20代	30代	40代	50代	60代
自由民主党	32.6%	35.7%	29.0%	35.0%	38.0%	35.3%	27.6%	28.9%
立憲民主党	16.2%	16.4%	15.9%	13.1%	11.5%	13.5%	20.7%	20.2%
日本維新の会	14.4%	14.9%	13.9%	9.2%	14.5%	13.0%	15.1%	19.0%
れいわ新選組	6.9%	6.6%	7.2%	9.2%	5.0%	10.1%	5.2%	5.3%
公明党	6.6%	6.3%	7.0%	5.3%	5.5%	6.8%	8.6%	6.5%
日本共産党	5.1%	3.2%	7.2%	1.9%	3.0%	3.4%	7.3%	8.4%
政党名は覚えていない	4.9%	4.1%	5.8%	9.7%	7.5%	4.8%	2.6%	1.1%
国民民主党	4.0%	3.9%	4.1%	5.3%	6.0%	4.3%	3.0%	1.9%
その他の政党	3.8%	4.7%	2.7%	4.9%	5.0%	3.4%	3.0%	3.0%
記入していない	3.1%	2.4%	3.9%	2.9%	2.5%	3.9%	5.2%	1.1%
社会民主党	1.5%	1.4%	1.7%	2.4%	0.5%	0.5%	0.9%	3.0%
無所属	1.1%	0.5%	1.7%	1.0%	1.0%	1.0%	0.9%	1.5%
n	1108	591	517	206	200	207	232	263
p値	-	0.014		0.000				
有意水準	-	*		***				

※有意水準の欄について、カイ二乗検定の結果、***はp<.001で有意、*はp<.05で有意であることを表す。
※表中の太字は、残差分析の結果、p<.05で有意であることを表す。黒字は正、赤字は負を表す。

1.3 投票の基準

事後調査問5で、政党や候補者に投票する時に何を判断の基準にしたか単数回答で質問を行った（表1.3.1）。調査対象は、事後調査問1で「投票した」を選択した人（n=1,108）である。

表 1.3.1 投票の基準（事後問5） ※単数回答

	全体	性別		年齢層				
		男性	女性	10・20代	30代	40代	50代	60代
争点に関する政党の主張	19.3%	20.5%	18.0%	12.1%	17.5%	19.8%	20.3%	25.1%
政党のイメージ	15.9%	13.7%	18.4%	19.4%	15.0%	11.1%	16.4%	17.1%
自分自身の生活や暮らし向き	14.4%	15.4%	13.3%	14.6%	16.0%	15.0%	14.2%	12.9%
争点に関する候補者の主張	11.3%	10.5%	12.2%	11.2%	9.0%	11.1%	12.9%	11.8%
参考にしたものはない	10.1%	9.0%	11.4%	8.3%	12.5%	13.0%	11.2%	6.5%
候補者の人柄やイメージ	9.1%	9.6%	8.5%	7.8%	7.0%	9.2%	9.5%	11.4%
国全体の経済状況	8.6%	11.0%	5.8%	6.8%	11.0%	9.7%	6.9%	8.7%
周りの人の意見や評価	3.5%	1.9%	5.4%	7.8%	3.5%	1.9%	3.0%	1.9%
所属する企業や団体、組合の推薦	3.3%	3.6%	3.1%	4.4%	4.5%	5.3%	1.7%	1.5%
その他	2.5%	3.4%	1.5%	2.9%	2.5%	2.4%	2.6%	2.3%
運動員からの働きかけ	1.9%	1.5%	2.3%	4.9%	1.5%	1.4%	1.3%	0.8%
n	1108	591	517	206	200	207	232	263
p値	-	0.000		0.006				
有意水準	-	***		**				

※有意水準の欄について、カイ二乗検定の結果、***はp<.05で有意、**はp<.01で有意であることを表す。
※表中の太字は、残差分析の結果、p<.05で有意であることを表す。黒字は正、赤字は負を表す。

投票の基準は上位から「争点に関する政党の主張」（19.3%）、「政党のイメージ」（15.9%）、「自分自身の生活や暮らし向き」（14.4%）、「争点に関する候補者の主張」（11.3%）、「参考にしたものはない」（10.1%）の順番となった。

カイ二乗検定と残差分析の結果、性別では「政党のイメージ」「周りの人の意見や評価」で女性が有意に高く、「国全体の経済状況」では男性が有意に高かった。

年齢層別では、「争点に関する政党の主張」で60代が有意に高く、「周りの人の意見や評価」「運動員からの働きかけ」で10・20代が有意に高かった。

男性は経済状況を、女性は政党イメージや周囲の意見・評価を参考に投票する割合が高いことが明らかとなった。また、高年齢層では争点に関する政党の主張を参考に投票する割合が高い一方、若年層では、周りの意見や評価、働きかけを参考に投票する割合が高い傾向が示された。

1.4 投票先決定時期

事後調査問6で、選挙区選挙での投票先の候補者の決定時期について、単数回答で質問を行った(表1.4.1)。対象は事後調査問1で「投票した」を選択した人(n=1,108)である。

回答は上位から、「7月14日(投票日1週間前)～7月20日(投票日の前日)」(35.8%)、「7月21日(投票日の当日)」(22.6%)、「7月4日(選挙公示日)～7月13日」(20.3%)、「5月以前」(13.2%)、「6月～7月3日(選挙公示日の前)」(8.1%)の順番となった。

カイ二乗検定と残差分析の結果、性別では「5月以前」と「6月～7月3日(選挙公示日の前)」で男性の割合が有意に高かった。一方、「7月14日(投票日1週間前)～7月20日(投票日の前日)」では女性の割合が有意に高かった。

年齢層別では、「6月～7月3日(選挙公示日の前)」と「7月4日(選挙公示日)～7月13日」で60代の割合が有意に高かった。「7月21日(投票日の当日)」では10・20代と30代の割合が有意に高かった。

男性は早期に、女性は投票日の直前に投票先を決定する割合が高いことが明らかになった。また、高年齢層は選挙期間の前半までに投票先を決定し、若年層では投票日の当日に投票先を決める割合が高いことが示された。

表 1.4.1 投票先決定時期(選挙区)(事後問6) ※単数回答

	全体	性別		年齢層					
		男性	女性	10・20代	30代	40代	50代	60代	
5月以前	13.2%	15.6%	10.4%	8.3%	12.0%	13.0%	14.7%	16.7%	
6月～7月3日(選挙公示日の前)	8.1%	9.8%	6.2%	5.3%	7.0%	8.7%	7.3%	11.4%	
7月4日(選挙公示日)～7月13日	20.3%	21.5%	19.0%	22.3%	16.0%	15.9%	19.0%	26.6%	
7月14日(投票日1週間前)～7月20日(投票日の前日)	35.8%	32.8%	39.3%	35.4%	37.0%	39.6%	35.3%	32.7%	
7月21日(投票日の当日)	22.6%	20.3%	25.1%	28.6%	28.0%	22.7%	23.7%	12.5%	
n	1108	591	517	206	200	207	232	263	
p値	-	0.002		0.000					
有意水準	-	**		***					

※有意水準の欄について、カイ二乗検定の結果、***はp<.001で有意、**はp<.01で有意であることを表す。

※表中の太字は、残差分析の結果、p<.05で有意であることを表す。黒字は正、赤字は負を表す。

比例代表選挙の投票先の選択時期についても事後調査問6で質問を行った(表1.4.2)。対象は同じく、事後調査問1で「投票した」を選択した人(n=1,108)である。その結果、上位から「7月14日(投票日1週間前)～7月20日(投票日の前日)」(36.3%)、「7月21日(投票日の当日)」

(21.5%)、「7月4日(選挙公示日)～7月13日」(17.8%)、「5月以前」(15.9%)、「6月～7月3日(選挙公示日の前)」(8.6%)の順番となった。

カイ二乗検定と残差分析の結果、性別では「5月以前」で男性の割合が有意に高かった。

年齢層別では、「5月以前」で50代、「7月4日(選挙公示日)～7月13日」では60代、「7月21日(投票日の当日)」では10・20代が有意に高かった。

分析の結果から、比例代表選挙でも男性について、早期に投票先を決定する傾向が明らかとなった。また、高年齢層では選挙期間の前半までに投票先を決定する傾向がある一方、若年層では投票日当日に投票先を決める割合が高いことが示された。

表 1.4.2 投票先決定時期(比例代表)(事後問6) ※単数回答

	全体	性別		年齢層				
		男性	女性	10・20代	30代	40代	50代	60代
5月以前	15.9%	18.1%	13.3%	9.2%	13.5%	15.0%	20.7%	19.4%
6月～7月3日(選挙公示日の前)	8.6%	9.5%	7.5%	6.8%	5.5%	10.6%	7.8%	11.4%
7月4日(選挙公示日)～7月13日	17.8%	19.3%	16.1%	18.9%	15.5%	15.5%	14.7%	23.2%
7月14日(投票日1週間前)～7月20日(投票日の前日)	36.3%	33.8%	39.1%	37.4%	39.5%	37.2%	34.9%	33.5%
7月21日(投票日の当日)	21.5%	19.3%	24.0%	27.7%	26.0%	21.7%	22.0%	12.5%
n	1108	591	517	206	200	207	232	263
p値	-	0.020		0.000				
有意水準	-	*		***				

※有意水準の欄について、カイ二乗検定の結果、***は $p < .001$ で有意、*は $p < .05$ で有意であることを表す。

※表中の太字は、残差分析の結果、 $p < .05$ で有意であることを表す。黒字は正、赤字は負を表す。

2. 選挙運動期間中のメディア接触

2.1 メディアへの接触

事後調査問 25 で、「あなたは今回の参議院選挙の選挙運動期間中（7月4日～7月20日）、以下のメディアで選挙に関する情報を何回くらい見たり聞いたりしましたか。（それぞれひとつだけ）」との質問を行った。「ほぼ毎日」「週に数回」「選挙運動期間中に数回」「選挙運動期間中に1回」「まったく見ていない」の5件法を用いて、単数回答で回答を求めた。このうち「まったく見ていない」以外を合わせて「接触」とし、その割合を集計した結果が表 2.1.1 である。

表 2.1.1 メディアへの接触（事後問 25）

	全体	性別				有意水準	年齢層					p値	有意水準
		男性	女性	p値	10・20代		30代	40代	50代	60代			
テレビ	80.2%	80.2%	80.1%	0.970	n.s.	76.6%	81.2%	77.7%	80.9%	85.2%	0.054	†	
政党・候補者のポスター・パンフレット	64.2%	65.0%	63.4%	0.490	n.s.	60.3%	67.2%	64.1%	63.4%	66.8%	0.330	n.s.	
政党・候補者の街頭演説・宣伝車	52.4%	53.9%	51.0%	0.250	n.s.	57.6%	52.2%	53.4%	51.1%	46.8%	0.082	†	
インターネットのニュースサイト・ニュースアプリ (Yahoo!ニュースなど)	52.0%	61.3%	42.8%	0.000	***	54.6%	54.1%	52.1%	47.9%	51.0%	0.433	n.s.	
政党・候補者の新聞広告・テレビ広告	48.0%	53.2%	42.8%	0.000	***	43.2%	41.1%	45.6%	53.4%	57.7%	0.000	***	
新聞	47.1%	53.5%	40.8%	0.000	***	35.3%	35.4%	46.9%	55.0%	65.5%	0.000	***	
選挙に関連した家族との会話	44.0%	40.4%	47.5%	0.004	**	44.6%	37.3%	36.6%	46.3%	55.2%	0.000	***	
選挙公報	38.1%	40.0%	36.1%	0.103	n.s.	32.9%	31.5%	33.7%	33.7%	59.7%	0.000	***	
選挙についての検索結果 (Googleなどで)	26.1%	33.8%	18.4%	0.000	***	31.0%	26.1%	27.8%	22.7%	21.9%	0.046	*	
メディアを問わず世論調査	25.9%	33.1%	18.7%	0.000	***	26.4%	18.5%	22.7%	25.9%	36.1%	0.000	***	
選挙に関連した友人との会話	23.4%	27.9%	19.0%	0.000	***	29.3%	18.2%	22.0%	21.7%	24.8%	0.010	**	
まとめサイト (NAVERまとめなど)	19.8%	27.4%	12.3%	0.000	***	25.0%	22.6%	20.4%	16.8%	13.2%	0.001	**	
政党・候補者のウェブサイト (ブログを含む)	19.4%	26.2%	12.5%	0.000	***	24.7%	20.7%	19.4%	17.8%	13.2%	0.005	**	
政党・候補者のネット広告	18.3%	25.1%	11.5%	0.000	***	24.5%	15.3%	18.1%	17.5%	15.2%	0.009	**	
政党・候補者が投稿したSNS	18.0%	24.9%	11.0%	0.000	***	29.1%	18.8%	16.2%	13.6%	10.0%	0.000	***	
政党・候補者のネット動画	16.6%	23.0%	10.2%	0.000	***	23.4%	17.2%	14.2%	12.6%	14.2%	0.001	**	
友人・知人が投稿したSNS	15.8%	20.0%	11.7%	0.000	***	27.2%	17.8%	13.6%	10.0%	8.4%	0.000	***	
政党集会・市民集会	10.9%	15.5%	6.3%	0.000	***	16.8%	11.5%	11.7%	5.8%	7.7%	0.000	***	
政党・候補者のメール・メールマガジン	10.4%	16.0%	4.7%	0.000	***	15.5%	9.2%	10.4%	8.4%	7.4%	0.005	**	
n	1610	804	806	-	-	368	314	309	309	310	-	-	

※有意水準の欄について、カイ二乗検定の結果、***はp<.001で有意、**はp<.01で有意、*はp<.05で有意、†はp<.1で有意傾向であることを表す。n.s.はnot significant（非有意）を表す。

※表中の太字は、残差分析の結果、p<.05で有意であることを表す。黒字は正、赤字は負を表す。

その結果、選挙運動期間中に接触したメディアは上位から「テレビ」（80.2%）、「政党・候補者のポスター・パンフレット」（64.2%）、「政党・候補者の街頭演説・宣伝車」（52.4%）、「インターネットのニュースサイト・ニュースアプリ（Yahoo!ニュースなど）」（52.0%）となった。

カイ二乗検定と残差分析の結果、性別では「選挙に関連した家族との会話」の割合は女性で有意に

高かった。また、「テレビ」「政党・候補者のポスター・パンフレット」「政党・候補者の街頭演説・宣伝車」「選挙公報」では有意差は見られなかった。それ以外の全てのメディアにおいて、接触した割合が男性で有意に高かった。

年齢層別では、「テレビ」「新聞」「選挙に関連した家族との会話」「選挙広報」「メディアを問わず世論調査」で60代の接触率が有意に高かった。また、「政党・候補者の新聞広告・テレビ広告」で50代・60代の接触率が有意に高い結果となった。一方、「政党・候補者の街頭演説・宣伝車」「選挙についての検索結果（Googleなどで）」「選挙に関連した友人との会話」「まとめサイト（NAVERまとめなど）」「政党・候補者のウェブサイト」「政党・候補者のネット広告」「政党・候補者が投稿したSNS」「政党・候補者のネット動画」「友人・知人が投稿したSNS」「政党集会・市民集会」「政党・候補者のメール・メールマガジン」への接触率は10・20代が有意に高かった。

高年齢層では「テレビ」「新聞」等のマスメディアへの接触率が高い一方、若年層ではインターネット上の情報源への接触率が高い傾向が示された。

2.2 SNS への接触

事後調査問 32 で、選挙運動期間中の選挙に関する情報への SNS 上での接触頻度について、単数回答で質問した。「ほぼ毎日」「週に数回」「選挙運動期間中に数回」「選挙運動期間中に1回」「まったく見ていない」の5件法で質問し、「まったく見ていない」以外を「接触」として集計した割合が表 2.2.1 である。全体では上位から、「Twitter（ツイッター）」（23.5%）、「LINE（ライン）」「YouTube（ユーチューブ）」（いずれも 23.4%）の順番となった。カイ二乗検定と残差分析の結果、性別では全ての SNS への接触割合が男性で有意に高かった。年齢層別では、「YouTube」と「ニコニコ動画」は10・20代と30代で、その他の SNS は10・20代で、接触率が有意に高かった。選挙に関する情報への個別の SNS 上での接触割合も、若年層で高いことが明らかとなった。

表 2.2.1 SNS への接触（事後問 32）

	全体	性別				年齢層					p値	有意水準
		男性	女性	p値	有意水準	10・20代	30代	40代	50代	60代		
Twitter(ツイッター)	23.5%	29.5%	17.6%	0.000	***	45.7%	24.8%	21.0%	13.3%	8.7%	0.000	***
LINE(ライン)	23.4%	26.1%	20.7%	0.011	*	35.1%	24.8%	23.0%	18.1%	13.9%	0.000	***
YouTube(ユーチューブ)	23.4%	32.0%	14.9%	0.000	***	34.8%	28.0%	19.7%	16.8%	15.5%	0.000	***
Facebook(フェイスブック)	13.4%	19.3%	7.4%	0.000	***	19.0%	15.6%	8.7%	10.4%	11.9%	0.000	***
Instagram(インスタグラム)	12.4%	14.8%	9.9%	0.003	**	25.3%	15.3%	8.4%	5.2%	5.2%	0.000	***
ニコニコ動画	7.5%	12.3%	2.7%	0.000	***	14.1%	10.8%	4.9%	3.9%	2.6%	0.000	***
n	1610	804	806	-	-	368	314	309	309	310	-	-

※有意水準の欄について、カイ二乗検定の結果、***は p<.001 で有意、**は p<.01 で有意、*は p<.05 で有意を表す。
 ※表中の太字は、残差分析の結果、p<.05 で有意であることを表す。黒字は正、赤字は負を表す。

2.3 ネットニュースへの接触

選挙運動期間中にポータルサイト・ニュースサイト・アプリ上において、選挙に関する情報に接触した頻度を、事後調査問 33 において単数回答で質問した。対象は、事後調査問 25（12）で選挙運動期間中に「インターネットのニュースサイト・ニュースアプリ（Yahoo!ニュースなど）」に1回以上接触した人（n=838）である。「ほぼ毎日」「週に数回」「選挙運動期間中に数回」「選挙運動期間中

に1回「まったく見ていない」の5件法で回答を求め、「まったく見ていない」以外を接触とし集計した割合が表2.3.1である。上位から、「Yahoo!ニュース」(80.0%)、「LINENEWS」(41.3%)、「Googleニュース」(35.6%)、「SmartNews」(29.7%)、「日経電子版」(20.6%)の順番となった。

カイ二乗検定と残差分析を行ったところ、性別では「LINENEWS」以外は全て、男性の接触率の方が高かった。年齢層別では、「Yahoo!ニュース」は40代、「NewsPicks」は10・20代と30代の接触率が有意に高かった。この他、「Googleニュース」と「日経電子版」以外は全て、10・20代の接触率が有意に高い結果となった。「Yahoo!ニュース」では40代の接触率が高い一方、「Googleニュース」「日経電子版」以外の他のネットニュースでは、若年層の接触率が高い状況が明らかとなった。

表 2.3.1 ネットニュースへの接触 (事後問 33)

	全体	性別				年齢層						
		男性	女性	p値	有意水準	10・20代	30代	40代	50代	60代	p値	有意水準
Yahoo!ニュース	80.0%	83.8%	74.5%	0.001	***	72.6%	76.5%	88.2%	82.4%	82.3%	0.003	**
LINENEWS	41.3%	40.4%	42.6%	0.516	n.s.	57.2%	45.3%	34.8%	32.4%	31.6%	0.000	***
Googleニュース	35.6%	41.6%	27.0%	0.000	***	31.8%	36.5%	35.4%	36.5%	38.6%	0.741	n.s.
SmartNews	29.7%	33.5%	24.3%	0.004	**	35.3%	30.0%	28.0%	28.4%	25.3%	0.302	n.s.
日経電子版	20.6%	28.0%	10.1%	0.000	***	25.4%	21.2%	19.3%	12.8%	22.8%	0.063	†
Gunosy	18.1%	24.5%	9.0%	0.000	***	26.4%	21.2%	14.3%	15.5%	10.8%	0.001	**
朝日新聞デジタル	18.1%	23.5%	10.4%	0.000	***	23.9%	17.1%	14.9%	13.5%	19.6%	0.088	†
msnニュース	17.2%	22.1%	10.1%	0.000	***	23.9%	17.6%	16.8%	11.5%	13.9%	0.027	*
産経ニュース	17.2%	23.3%	8.4%	0.000	***	24.9%	15.9%	13.7%	11.5%	17.7%	0.010	**
読売新聞オンライン	16.3%	22.7%	7.2%	0.000	***	21.9%	15.3%	13.7%	12.2%	17.1%	0.113	n.s.
毎日新聞ニュース	15.4%	20.3%	8.4%	0.000	***	21.9%	17.1%	12.4%	10.8%	12.7%	0.024	*
NewsPicks	12.1%	16.0%	6.4%	0.000	***	21.4%	16.5%	8.7%	7.4%	3.2%	0.000	***
n	838	493	345	—	—	201	170	161	148	158	—	—

※有意水準の欄について、カイ二乗検定の結果、***はp<.001で有意、**はp<.01で有意、*はp<.05で有意、†はp<.1で有意傾向であることを表す。n.s.はnot significant(非有意)を表す。

※表中の太字は、残差分析の結果、p<.05で有意であることを表す。黒字は正、赤字は負を表す。

2.4 政党サイト・SNS への接触

事後問 25(6) (7)で政党・候補者のウェブサイトやソーシャルメディアに選挙運動期間中に1回以上接触した回答者（ウェブサイト：n=312、ソーシャルメディア：n=289）を対象に、どの政党のウェブサイト・ソーシャルメディアにアクセスしたかをたずねている（事後問 34）。表 2.4.1 は政党別にアクセス率を比較したものである。サンプルサイズが小さいため、本稿ではウェブサイト・ソーシャルメディアいずれのアクセス率も5%未満の政党は分析対象から外し、自由民主党、公明党、立憲民主党、国民民主党、日本共産党、日本維新の会、れいわ新選組の7政党を分析対象とした。

表 2.4.1 全体・性別・年齢層別の政党サイト・SNS 接触率

	全体	性別		年齢層別				
		男性	女性	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳
自民 (site)	34.7%	37.9%	26.7% †	38.5%	44.6%	30.0%	25.5%	26.8%
自民 (social)	30.1%	32.5%	24.7%	34.6%	42.4%	22.0%	26.2%	9.7% *
公明 (site)	10.6%	11.4%	8.9%	12.1%	18.5%	1.7%	7.3%	12.2% *
公明 (social)	9.7%	11.0%	6.7%	11.2%	15.3%	6.0%	4.8%	6.5% †
立憲 (site)	23.7%	25.6%	19.8%	25.3%	30.8%	16.7%	14.5%	31.7%
立憲 (social)	17.6%	18.0%	16.9%	21.5%	22.0%	14.0%	11.9%	9.7%
国民 (site)	12.2%	12.8%	10.9%	14.3%	21.5%	6.7%	5.5%	9.8% *
国民 (social)	11.1%	10.5%	12.4%	13.1%	15.3%	16.0%	2.4%	0.0% *
共産 (site)	10.3%	9.5%	11.9%	14.3%	18.5%	3.3%	0.0%	12.2% **
共産 (social)	8.7%	9.0%	7.9%	11.2%	11.9%	8.0%	0.0%	6.5%
維新 (site)	17.6%	19.0%	14.9%	17.6%	29.2%	10.0%	12.7%	17.1% †
維新 (social)	12.5%	15.0%	6.7% †	10.3%	25.4%	8.0%	14.3%	0.0% **
れいわ (site)	10.6%	9.5%	12.9%	11.0%	20.0%	10.0%	1.8%	7.3% *
れいわ (social)	14.2%	12.5%	18.0%	15.0%	16.9%	14.0%	4.8%	19.4%

χ^2 検定の結果、† : p<0.1、* : p<0.05、** : p<0.01

表中の黒太字は残差分析の結果5%水準で有意に高い値、赤太字は有意に低い値を表す。

2017年衆院選時に実施した調査では、政党別サイト・ソーシャルメディア接触率で性別による有意差はなく、10歳代ではソーシャルメディアへの接触率が高かった（橋元ら，2018）。2019年参院選の調査結果では、性別による接触率の差は2017年調査と同様に有意ではないが、年齢層別では30代が政党のウェブサイトやSNSへの接触率が高くなっている。

次に、政党のウェブサイト・SNSへの接触に関連する変数を調べるため、いずれかの政党・候補者へのウェブサイトまたはソーシャルメディアへの接触を従属変数、属性、政治関心（問8）、メディアごとの選挙関連情報接触頻度（問1：テレビ、新聞、ニュースサイト、友人のSNS、友人との会話）を独立変数に投入したロジスティック回帰分析を行った（表2.4.2）。

政党ウェブサイト・SNSともに、年齢が低くなるほど（5%水準）接触する可能性が高くなっている。異なる点では、政党ウェブサイトへの接触では政治関心、ニュースサイト（10%水準有意傾

向)・友人との会話(5%水準)での選挙関連情報接触と正の関連がある一方で、政党 SNS への接触は友人 SNS からの選挙関連情報接触(1%水準)と正の関連があった。選挙関連情報の情報源として、ウェブサイト(ニュースサイト)を利用している人は政党ウェブサイトにも、友人 SNS を利用している人は政党 SNS にも接触している傾向がみられる。

表 2.4.2 政党・候補者ウェブサイト・ソーシャルメディア接触の予測

従属変数	政党ウェブサイト接触		政党 SNS 接触	
	<i>B</i>	<i>SE</i>	<i>B</i>	<i>SE</i>
性別(1:男性, 2:女性)	-0.070	0.277	-0.122	0.292
年齢	-0.037***	0.010	-0.040***	0.010
教育年数	0.056	0.067	0.054	0.068
政治関心	0.234 †	0.127	0.187	0.129
テレビ	0.007	0.022	0.009	0.023
新聞	0.008	0.021	0.016	0.024
ニュースサイト	0.040 †	0.022	0.026	0.023
友人の SNS	0.064	0.040	0.095**	0.036
友人との会話	0.110*	0.049	0.031	0.041
定数	-0.388	1.287	-0.423	1.269
n	311		287	
Nagelkerke R ²	0.201		0.188	

† : p<0.1, ** : p<0.01, *** : p<0.001

橋元良明・小笠原盛浩・河井大介・長濱憲(2018)「2017年衆議院選挙における投票行動と情報行動:年齢層別比較を中心に」『東京大学大学院情報学環情報学研究.調査研究編』東京大学大学院情報学環,34,1-59.

2.5 候補者ウェブサイト・SNS への接触、SNS で見た選挙関連の話題

2.5.1 候補者ウェブサイト・SNS への接触

事後問 25(6)(7)で政党・候補者のウェブサイトや SNS のどちらかに選挙期間中に 1 回以上接触した回答者 (n=384) を対象に、候補者のウェブサイト・SNS にアクセスした頻度を 4 件法でたずねている (事後問 35)。表 2.5.1 は事後問 35 の回答を、回答者全員を母数とした (n=1612) 候補者ウェブサイト・SNS への接触有無の 2 値変数 (接触あり、接触なし) に変換し、接触率を性別・年齢層別に比較したものである。

男性、10・20 代の回答者は候補者のウェブサイト・SNS への接触率が有意に高く、女性・50・60 代の回答者は接触率が有意に低い。

表 2.5.1 全体・性別・年齢層別の候補者サイト・SNS 接触率

全体	性別		年齢層別				
	男性	女性	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳
17.3%	23.0%	11.7%***	26.4%	19.1%	16.5%	11.7%	11.3%***

χ^2 検定の結果、***: $p < 0.001$

表中の黒太字は残差分析の結果 5%水準で有意に高い値、赤太字は有意に低い値を表す。

表 2.5.2 候補者ウェブサイト・SNS 接触頻度の予測

従属変数	候補者サイト・SNS 接触頻度	
	β	t
性別 (1:男性, 2:女性)	-0.037 †	0.998
年齢	-0.129***	-1.693
教育年数	0.018	-5.733
政治関心	0.139***	0.818
テレビ	-0.017	5.906
新聞	0.004	-0.723
ニュースサイト	0.109***	0.141
友人の SNS	0.311***	4.704
友人との会話	0.110***	13.708
調整済 R ²	0.302	

†: $p < 0.1$, ***: $p < 0.001$

次に事後問 35 の回答を回答者全員を母数にして変換し、候補者ウェブサイト・SNS への接触頻度を重回帰分析で予測した結果が表 2.5.2 である。男性であるほど (10%有意傾向)、年齢が若いほど・政治関心が高いほど (0.1%水準)、ニュースサイト・友人の SNS・友人との会話を通じて選挙関

連情報に接しているほど（0.1%）、候補者のウェブサイト・SNSにも接触する頻度が高くなっている。

2.5.2 SNS で見た選挙関連の話題

選挙運動期間中に SNS で見た選挙関連の話題について、回答者全員（n=1612）を母数に事後問 36 でたずねている。話題ごとの接触率を性別・年齢層別に比較したものが表 2.5.3 である。

最も接触率が高い話題は政党関連（43.2%）、最も低い話題は街頭演説・演説会関連（11.2%）であった。性別では、党首関連（5%水準）・争点関連（1%水準）の話題に男性の方が有意に高く接触している。年齢層別では、政党関連の話題への接触率が 10・20 代で有意が高く、50・60 代では有意に低い。また、候補者関連の話題には 40 代の接触率が高く、60 代が低い。

表 2.5.3 全体・性別・年齢層別の SNS で見た選挙関連の話題接触率

	全体	性別			年齢層別					
		男性	女性		18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	
政党関連	43.2%	45.4%	40.9%	†	53.0%	46.2%	42.4%	38.2%	34.2%	***
党首関連	12.7%	14.9%	10.5%	*	14.4%	11.5%	12.0%	10.4%	15.2%	
候補者関連	24.8%	23.3%	26.3%		27.2%	25.8%	31.1%	24.3%	15.5%	***
争点関連	20.5%	23.7%	17.2%	**	23.6%	20.7%	18.8%	19.4%	19.4%	
街頭演説関連	11.2%	9.8%	12.5%	†	12.5%	13.4%	11.3%	10.4%	8.1%	

χ^2 検定の結果、†：p<0.1、*：p<0.05、**：p<0.01、***：p<0.001

表中の黒太字は残差分析の結果 5%水準で有意に高い値、赤太字は有意に低い値を表す。

3. 役に立った情報源、信頼できた情報源

3.1 役に立った情報源

選挙期間中（7月4日～7月20日）に19のメディアそれぞれで1回でも選挙に関する情報に接触した人に、その情報源が役に立ったか、「役に立った」「やや役に立った」「あまり役に立たなかった」「役に立たなかった」の4件法で確認した。「役に立った」「やや役に立った」を「役に立った」として、その比率を、全体、性別、年齢層別に確認したものが表3.1.1である。また、参考として、(6)～(13) (19)を汎ネットとして、いずれか一つでも「役に立った」としている人の比率も示す。

分析の結果、全体では、(2)新聞（72.1%）が最も役に立った人の比率が高く、次いで(19)検索結果（66.0%）、(1)テレビ（65.8%）、(12)ニュースサイト・ニュースアプリ（63.7%）が続く。

性別では、(1)テレビ、(10)政党・候補者のネット動画で男性の方が役に立ったと回答した人の比率が高く、(15)家族との会話では女性の方が役に立ったと回答した人の比率が高い。それ以外のメディアでは性別による差異はみられなかった。

表 3.1.1 全体・性別・年齢層別の情報源が役に立った人の比率（利用者のみ）

	N	全体	女性	男性	χ^2 値	18-29	30-39	40-49	50-59	60-69	χ^2 値
(1) テレビ	1291	65.8%	62.1%	69.6%	8.15 **	62.1%	64.3%	64.2%	68.8%	70.1%	5.44
(2) 新聞	759	72.1%	71.7%	72.3%	0.03	68.5%	75.7%	66.9%	72.4%	75.9%	4.94
(3) 政党・候補者のポスター・パンフレット	1034	36.3%	34.1%	38.4%	2.15	40.5%	39.3%	36.4%	29.6%	34.8%	6.59
(4) 政党・候補者の新聞広告・テレビ広告	773	34.4%	32.5%	36.0%	1.05	41.5%	35.7%	34.8%	29.1%	31.8%	6.24
(5) 政党・候補者の街頭演説・宣伝車	844	24.2%	21.9%	26.3%	2.26	29.7%	23.8%	23.6%	17.1%	24.8%	7.96 †
(6) 政党・候補者のウェブサイト	312	59.6%	56.4%	61.1%	0.63	70.3%	66.2%	60.0%	40.0%	51.2%	15.49 **
(7) 政党・候補者が投稿したSNS	289	58.5%	59.6%	58.0%	0.06	66.4%	61.0%	56.0%	35.7%	61.3%	12.08 *
(8) 政党・候補者のメール、メールマガジン	167	43.7%	34.2%	46.5%	1.81	45.6%	48.3%	46.9%	30.8%	43.5%	2.23
(9) 政党・候補者のネット広告	295	40.0%	34.4%	42.6%	1.77	50.0%	41.7%	37.5%	22.2%	42.6%	11.19 *
(10) 政党・候補者のネット動画	267	56.2%	41.5%	62.7%	10.41 **	66.3%	55.6%	59.1%	43.6%	45.5%	8.29 †
(11) 友人・知人が投稿したSNS	255	51.8%	56.4%	49.1%	1.27	55.0%	42.9%	52.4%	48.4%	61.5%	3.34
(12) ニュースサイト・ニュースアプリ	838	63.7%	60.6%	65.9%	2.51	65.2%	67.1%	60.9%	62.2%	62.7%	1.80
(13) まとめサイト（NAVERまとめなど）	319	55.2%	56.6%	54.5%	0.11	50.0%	59.2%	63.5%	53.8%	48.8%	3.93
(14) 選挙公報	613	57.6%	60.5%	55.0%	1.90	57.9%	58.6%	58.7%	56.7%	56.8%	0.18
(15) 選挙に関連した家族との会話	708	59.0%	62.9%	54.5%	5.21 *	64.0%	55.6%	61.1%	58.0%	56.1%	3.12
(16) 選挙に関連した友人との会話	377	56.2%	58.2%	54.9%	0.39	53.7%	52.6%	60.3%	50.7%	63.6%	3.57
(17) 政党集会・市民集会	176	51.1%	47.1%	52.8%	0.48	51.6%	50.0%	47.2%	44.4%	62.5%	1.81
(18) メディアを問わず世論調査	417	48.7%	50.3%	47.7%	0.26	51.5%	51.7%	47.1%	52.5%	42.9%	2.59
(19) 選挙についての検索結果	420	66.0%	68.9%	64.3%	0.90	68.4%	73.2%	61.6%	58.6%	66.2%	4.63
汎ネット	957	67.6%	61.2%	72.3%	13.02 ***	73.7%	68.1%	65.9%	63.1%	64.8%	6.53

※ χ^2 値横の記号は、 χ^2 検定の結果、***： $p<.001$ 、**： $p<.01$ 、*： $p<.05$ 、†： $p<.10$ であることを示す。

※性別では χ^2 検定の結果、年齢層別では残差分析の結果、黒太字： $p<.05$ で高く、赤太字： $p<.05$ で低いことを示す。

※汎ネット：(6)(7)(8)(9)(10)(11)(12)(13)(19)のいずれか1つでも役に立ったと回答した人の比率。

年齢層別では、(3)政党・候補者のポスター・パンフレットでは50代が低く、(4)政党・候補者の新聞広告・テレビ広告、(10)政党・候補者のネット動画では18-29歳が高く、(5)政党・候補者の街頭

演説・宣伝車、(6)政党・候補者のウェブサイト（ブログを含む）、(7)政党・候補者が投稿した SNS、(9)政党・候補者のネット広告では50代が低く、18-29歳で高い結果となった。

3.2 信頼できた情報源

選挙期間中（7月4日～7月20日）に19のメディアそれぞれで1回でも選挙に関する情報に接触した人に、その情報源が信頼できたか、「信頼できた」「やや信頼できた」「あまり信頼できなかった」「信頼できなかった」の4件法で確認した。「信頼できた」「やや信頼できた」を「信頼できた」として、その比率を、全体、性別、年齢層別に確認したものが表3.2.1である。また、参考として、(6)～(13)(19)を汎ネットとして、いずれか一つでも「信頼できた」としている人の比率も示す。

分析の結果、全体では、(2)新聞（75.9%）が最も高く、次いで(15)家族との会話（72.9%）、(1)テレビ（67.4%）、(19)検索結果（66.7%）、(12)ニュースサイト・ニュースアプリ（66.1%）、(14)選挙公報（65.7%）、(15)友人との会話（64.2%）が続く。

表 3.2.1 全体・性別・年齢層別の情報源が信頼できた人の比率（利用者のみ）

	N	全体	女性	男性	χ^2 値	18-29	30-39	40-49	50-59	60-69	χ^2 値
(1) テレビ	1291	67.4%	67.6%	67.1%	0.04	60.6%	64.7%	66.7%	73.2%	72.3%	13.54 **
(2) 新聞	759	75.9%	81.2%	71.9%	8.80 **	70.8%	75.7%	73.1%	77.6%	79.8%	4.47
(3) 政党・候補者のポスター・パンフレット	1034	42.2%	43.4%	40.9%	0.68	47.3%	46.0%	40.9%	34.2%	41.5%	8.93 †
(4) 政党・候補者の新聞広告・テレビ広告	773	42.0%	45.2%	39.5%	2.58	50.3%	46.5%	42.6%	37.0%	35.8%	10.18 *
(5) 政党・候補者の街頭演説・宣伝車	844	31.6%	30.9%	32.3%	0.20	36.8%	33.5%	30.9%	24.7%	30.3%	6.56
(6) 政党・候補者のウェブサイト	312	56.7%	51.5%	59.2%	1.67	63.7%	64.6%	51.7%	49.1%	46.3%	7.20
(7) 政党・候補者が投稿したSNS	289	57.8%	61.8%	56.0%	0.85	67.3%	54.2%	56.0%	38.1%	61.3%	11.16 *
(8) 政党・候補者のメール、メールマガジン	167	49.7%	52.6%	48.8%	0.17	50.9%	55.2%	50.0%	46.2%	43.5%	0.87
(9) 政党・候補者のネット広告	295	43.1%	38.7%	45.0%	1.04	51.1%	47.9%	39.3%	31.5%	40.4%	6.25
(10) 政党・候補者のネット動画	267	56.9%	52.4%	58.9%	0.97	65.1%	57.4%	61.4%	46.2%	45.5%	6.92
(11) 友人・知人が投稿したSNS	255	58.8%	60.6%	57.8%	0.20	60.0%	60.7%	64.3%	48.4%	53.8%	2.32
(12) ニュースサイト・ニュースアプリ	838	66.1%	63.5%	68.0%	1.81	65.7%	68.8%	66.5%	65.5%	63.9%	0.94
(13) まとめサイト（NAVERまとめなど）	319	56.1%	55.6%	56.4%	0.02	56.5%	54.9%	63.5%	57.7%	43.9%	3.97
(14) 選挙公報	613	65.7%	68.4%	63.4%	1.72	64.5%	64.6%	67.3%	64.4%	67.0%	0.47
(15) 選挙に関連した家族との会話	708	72.9%	77.8%	67.1%	10.24 **	76.2%	76.1%	69.0%	68.5%	73.7%	3.80
(16) 選挙に関連した友人との会話	377	64.2%	65.4%	63.4%	0.15	58.3%	64.9%	66.2%	59.7%	74.0%	5.57
(17) 政党集会・市民集会	176	58.5%	58.8%	58.4%	0.00	61.3%	52.8%	52.8%	61.1%	66.7%	1.88
(18) メディアを問わず世論調査	417	56.4%	57.6%	55.6%	0.15	59.8%	60.3%	55.7%	60.0%	49.1%	3.68
(19) 選挙についての検索結果	420	66.7%	67.6%	66.2%	0.08	73.7%	72.0%	64.0%	54.3%	64.7%	8.79 †
汎ネット	957	71.4%	65.7%	75.5%	11.01 ***	76.1%	71.7%	69.3%	70.8%	67.0%	4.73

※ χ^2 値横の記号は、 χ^2 検定の結果、***: $p < .001$ 、** : $p < .01$ 、* : $p < .05$ 、† : $p < .10$ であることを示す。

※性別では χ^2 検定の結果、年齢層別では残差分析の結果、黒太字 : $p < .05$ で高く、赤太字 : $p < .05$ で低いことを示す。

※汎ネット : (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13) (19)のいずれか一つでも役に立ったと回答した人の比率。

性別では、(2)新聞と(15)家族との会話で、女性が男性よりも高かったが、それ以外のメディアでは性別による差異はみられなかった。

年齢層別では、(1)テレビで18-29歳が低く、50代が高い傾向がみられた。また、(3)政党・候補者

のポスター・パンフレット、(5)政党・候補者の街頭演説・宣伝車、(19)検索結果で 50 代が低い傾向がみられ、(4)政党・候補者の新聞広告・テレビ広告では 18-29 歳が高く、(7)政党・候補者が投稿した SNS で 18-29 歳が高く、50 代で低い傾向がみられ、(16)友人との会話では 60 代が高い傾向がみられた。それ以外のメディアでは年齢層による差異はみられなかった。

4. 重視争点

4.1 重視した争点

選挙後の事後調査問 20 において、選挙で重視した争点について複数回答で質問した（表 4.1.1）。重視した争点は上位から「年金」（39.4%）、「消費税引き上げ」（34.5%）、「景気」（34.2%）、「あてはまるものはない」（23.3%）、「憲法改正」（21.1%）の順番となった（表 4.1.1）。

カイ二乗検定・残差分析の結果では、「景気」「憲法改正」「財政再建」「外交政策全般」「日韓関係」「陸上イージスの配備」の割合は男性で有意に高かった。一方、「あてはまるものはない」「幼児教育・保育・高等教育無償化」の割合は、女性で有意に高かった。年齢層別では「年金」（50代、60代）、「憲法改正」「財政再建」「原子力発電所の稼働」「外交政策全般」「沖縄基地」（いずれも 60代）で、高年齢層における割合が有意に高かった。また、「消費税引き上げ」「あてはまるものはない」（いずれも 10・20代）については若年層で重視する割合が有意に高かった。「幼児教育・保育・高等教育無償化」（10・20代、30代）、「雇用」（40代）においても、各年齢層で重視する割合が有意に高い結果となった。

表 4.1.1 重視争点（複数）（事後問 20） ※複数回答

	全体	性別				年齢層						有意水準
		男性	女性	p値	有意水準	10・20代	30代	40代	50代	60代	p値	
年金	39.4%	37.7%	41.2%	0.150	n.s.	35.1%	31.8%	35.9%	46.9%	48.4%	0.000	***
消費税引き上げ	34.5%	34.8%	34.1%	0.765	n.s.	38.9%	28.3%	34.3%	34.6%	35.5%	0.075	†
景気	34.2%	38.4%	30.0%	0.000	***	28.8%	33.1%	36.2%	35.6%	38.4%	0.085	†
あてはまるものはない	23.3%	20.3%	26.3%	0.004	**	28.5%	27.4%	27.2%	19.7%	12.6%	0.000	***
憲法改正	21.1%	24.4%	17.9%	0.001	**	17.4%	17.5%	17.5%	19.1%	34.8%	0.000	***
雇用	17.8%	19.3%	16.4%	0.128	n.s.	16.8%	17.2%	22.7%	18.8%	13.9%	0.068	†
財政再建	16.4%	19.3%	13.5%	0.002	**	13.0%	13.7%	16.2%	16.8%	22.9%	0.006	**
幼児教育・保育・高等教育無償化	16.1%	12.6%	19.7%	0.000	***	20.4%	26.1%	11.3%	8.7%	13.2%	0.000	***
原子力発電所の稼働	11.9%	11.7%	12.0%	0.831	n.s.	8.2%	7.0%	9.4%	12.9%	22.6%	0.000	***
外交政策全般	11.4%	14.1%	8.7%	0.001	***	7.1%	8.0%	12.0%	11.0%	19.7%	0.000	***
日韓関係	8.2%	10.7%	5.7%	0.000	***	5.2%	8.0%	9.4%	10.7%	8.4%	0.105	n.s.
震災復興	7.2%	6.3%	8.1%	0.182	n.s.	6.5%	5.7%	6.8%	7.4%	9.7%	0.378	n.s.
沖縄基地	4.7%	4.9%	4.6%	0.806	n.s.	4.3%	3.8%	3.2%	4.5%	7.7%	0.075	†
北朝鮮拉致	4.2%	4.5%	4.0%	0.613	n.s.	3.5%	4.5%	3.9%	3.9%	5.5%	0.759	n.s.
北方領土・対ロシア交渉	3.5%	4.0%	3.0%	0.272	n.s.	3.0%	3.5%	3.9%	2.6%	4.5%	0.711	n.s.
陸上イージスの配備	3.0%	4.2%	1.9%	0.006	**	3.3%	1.9%	2.9%	2.9%	4.2%	0.583	n.s.
新たな日米貿易協定	2.8%	3.5%	2.1%	0.095	†	2.2%	2.9%	3.6%	1.6%	3.9%	0.394	n.s.
n	1610	804	806	-	-	368	314	309	309	310	-	-

※有意水準の欄について、カイ二乗検定の結果、***は $p < .001$ で有意、**は $p < .01$ で有意、†は $p < .1$ で有意傾向であることを表す。n.s.は not significant（非有意）を表す。

※表中の太字は、残差分析の結果、 $p < .05$ で有意であることを表す。黒字は正、赤字は負を表す。

さらに、選挙後の事後調査問 21 において、選挙時に最も重視した争点について単数回答で質問した（表 4.1.2）。対象は、事後調査問 20 でいずれかの争点を重視すると回答があった人（ $n = 1,235$ ）である。選挙後に最重視された争点は上位から、「消費税引き上げ」（19.4%）、「年金」（18.9%）、「景気」（18.5%）だった。

カイ二乗検定と残差分析の結果、性別では「景気」「日韓関係」は男性で、「幼児教育・保育・高等教育無償化」は女性で最重視する割合が有意に高かった。

年齢層別に見ると、「憲法改正」「原子力発電所の稼働」（いずれも 60代）において、高年齢層で重

視する割合が有意に高かった。一方、「消費税引き上げ」「沖縄基地」（いずれも10・20代）は、若年層で重視する割合が高かった。「幼児教育・保育・高等教育無償化」（10・20代、30代）、「雇用」（30代）、「財政再建」（40代）、「年金」（50代）、についても、各年齢層で重視する割合が高かった。

調査結果を通じて、性別・年齢層によって重視する争点が異なる傾向が見られた。

表 4.1.2 最重視争点（事後問 21） ※単数回答

	全体	性別		年齢層					
		男性	女性	10・20代	30代	40代	50代	60代	
消費税引き上げ	19.4%	17.5%	21.4%	24.7%	17.5%	22.2%	20.2%	12.5%	
年金	18.9%	18.4%	19.4%	17.9%	12.3%	13.3%	26.6%	22.9%	
景気	18.5%	22.0%	14.6%	14.8%	20.2%	20.9%	20.6%	16.6%	
憲法改正	10.5%	11.1%	9.9%	6.8%	9.2%	8.0%	9.7%	18.1%	
幼児教育・保育・高等教育無償化	7.9%	4.7%	11.3%	11.0%	20.6%	4.4%	1.6%	2.6%	
財政再建	6.5%	7.0%	5.9%	4.6%	4.4%	10.2%	5.6%	7.7%	
雇用	5.0%	5.1%	4.9%	5.7%	7.9%	5.3%	3.2%	3.3%	
外交政策全般	4.8%	5.0%	4.5%	3.4%	1.3%	7.1%	5.2%	6.6%	
原子力発電所の稼働	3.5%	3.1%	3.9%	2.7%	1.8%	2.2%	4.0%	6.3%	
日韓関係	2.3%	3.4%	1.2%	1.5%	3.1%	3.6%	2.4%	1.5%	
沖縄基地	0.9%	0.8%	1.0%	2.7%	0.9%	0.4%	0.0%	0.4%	
震災復興	0.7%	0.6%	0.8%	1.1%	0.0%	1.3%	0.4%	0.7%	
北朝鮮拉致	0.5%	0.3%	0.7%	1.1%	0.9%	0.0%	0.4%	0.0%	
北方領土・対ロシア交渉	0.2%	0.3%	0.2%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%	
新たな日米貿易協定	0.2%	0.3%	0.2%	0.4%	0.0%	0.4%	0.0%	0.4%	
陸上イージスの配備	0.2%	0.3%	0.2%	0.8%	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%	
n	1235	641	594	263	228	225	248	271	
p値	-	0.001		0.000					
有意水準	-	***		***					

※有意水準の欄について、カイ二乗検定の結果、***はp<.001で有意であることを表す。

※表中の太字は、残差分析の結果、p<.05で有意であることを表す。黒字は正、赤字は負を表す。

4.2 争点に接触した情報源

選挙期間中の重要なテーマだったと考えられる争点について、接触した情報源を事後調査問 22 において複数回答で質問した（表 4.2.1）。

争点の「景気回復」「憲法改正」「外交政策」に接触した割合は、「テレビ」「接触なし」「新聞」「ネットニュース」「SNS」「家族・友人との会話」「その他の情報源」の順番だった。「年金改革」については、「テレビ」「新聞」「接触なし」「ネットニュース」「SNS」「家族・友人との会話」「その他の情報源」の順番だった。

カイ二乗検定と残差分析の結果、性別については、いずれの争点も「新聞」「ネットニュース」に接触した割合は男性で有意に高く、「接触なし」は女性で有意に高かった。また、年齢層別では、いずれの争点についても「新聞」は50代と60代、「接触なし」は10・20代と30代、「SNS」は10・20代で回答の割合が高かった。「テレビ」は60代、または50代と60代で回答の割合が高かった。

選挙時の主要争点について、「テレビ」と「新聞」は高齢層、「SNS」は若年層が、高い割合で接触している状況が明らかになった。

表 4. 2. 1 争点に接触した情報源（事後問 22） ※複数回答

	全体	性別				年齢層					有意水準		
		男性	女性	p値	有意水準	10・20代	30代	40代	50代	60代		p値	
景気回復	テレビ	57.3%	59.7%	54.8%	0.049	*	48.4%	51.3%	56.3%	64.4%	67.7%	0.000	***
	接触なし	29.0%	22.4%	35.6%	0.000	***	37.8%	34.1%	28.5%	24.3%	18.7%	0.000	***
	新聞	21.7%	27.0%	16.5%	0.000	***	12.2%	13.1%	19.4%	29.1%	36.8%	0.000	***
	ネットニュース	18.1%	24.5%	11.8%	0.000	***	17.7%	16.6%	19.1%	19.1%	18.4%	0.913	n.s.
	SNS	5.4%	6.6%	4.2%	0.035	*	10.6%	6.7%	3.6%	4.2%	1.0%	0.000	***
	家族・友人との会話	3.4%	3.1%	3.7%	0.499	n.s.	4.3%	3.8%	2.9%	2.9%	2.9%	0.764	n.s.
	その他の情報源	2.2%	2.9%	1.5%	0.059	†	1.4%	2.9%	1.9%	1.9%	2.9%	0.594	n.s.
年金改革	テレビ	64.8%	64.8%	64.8%	0.988	n.s.	56.3%	61.5%	63.1%	68.6%	78.1%	0.000	***
	新聞	23.1%	26.6%	19.6%	0.001	***	11.7%	14.6%	21.4%	28.8%	41.3%	0.000	***
	接触なし	22.2%	19.5%	24.8%	0.011	*	27.4%	26.4%	24.3%	18.8%	12.9%	0.000	***
	ネットニュース	20.3%	26.5%	14.1%	0.000	***	21.2%	19.1%	19.7%	21.0%	20.3%	0.961	n.s.
	SNS	6.6%	7.1%	6.2%	0.475	n.s.	13.3%	6.4%	4.5%	5.2%	2.6%	0.000	***
	家族・友人との会話	4.5%	3.9%	5.2%	0.191	n.s.	5.4%	4.5%	3.2%	3.9%	5.5%	0.584	n.s.
	その他の情報源	2.7%	3.2%	2.1%	0.162	n.s.	1.6%	3.2%	2.6%	1.3%	4.8%	0.045	*
憲法改正	テレビ	60.5%	63.2%	57.8%	0.028	*	50.5%	54.8%	61.5%	63.4%	74.2%	0.000	***
	接触なし	27.0%	21.5%	32.5%	0.000	***	32.3%	34.1%	26.2%	25.6%	15.8%	0.000	***
	新聞	21.3%	26.5%	16.1%	0.000	***	12.8%	13.1%	20.4%	25.9%	36.1%	0.000	***
	ネットニュース	16.8%	23.0%	10.7%	0.000	***	15.8%	16.6%	17.8%	17.5%	16.8%	0.961	n.s.
	SNS	5.7%	7.0%	4.5%	0.031	*	10.3%	6.4%	4.2%	4.5%	2.3%	0.000	***
	家族・友人との会話	3.9%	3.7%	4.0%	0.803	n.s.	5.7%	3.2%	3.6%	1.6%	4.8%	0.065	†
	その他の情報源	2.9%	2.7%	3.0%	0.771	n.s.	3.5%	2.9%	2.3%	2.3%	3.2%	0.820	n.s.
外交政策	テレビ	55.7%	60.2%	51.1%	0.000	***	46.2%	49.4%	57.3%	60.5%	66.8%	0.000	***
	接触なし	31.9%	23.6%	40.2%	0.000	***	38.0%	38.9%	30.4%	29.8%	21.3%	0.000	***
	新聞	20.6%	25.5%	15.6%	0.000	***	11.1%	10.8%	18.8%	26.5%	37.4%	0.000	***
	ネットニュース	18.7%	25.1%	12.3%	0.000	***	17.4%	17.8%	20.7%	18.8%	19.0%	0.841	n.s.
	SNS	6.0%	7.1%	4.8%	0.057	†	12.2%	5.7%	3.9%	3.9%	2.9%	0.000	***
	家族・友人との会話	2.7%	3.1%	2.4%	0.355	n.s.	3.3%	3.8%	1.6%	1.3%	3.5%	0.170	n.s.
	その他の情報源	2.3%	3.0%	1.6%	0.066	†	2.2%	2.2%	1.9%	1.9%	3.2%	0.814	n.s.
n	1610	804	806			368	314	309	309	310			

※有意水準の欄について、カイ二乗検定の結果、***はp<.001で有意、*はp<.05で有意、†はp<.1で有意傾向であることを表す。n.s.はnot significant（非有意）を表す。

※表中の太字は、残差分析の結果、p<.05で有意であることを表す。黒字は正、赤字は負を表す。

4.3 争点に関する安倍政権の取り組みへの評価

選挙期間中の主要なテーマと考えられる争点について、安倍政権の取り組みへの評価を、選挙後の事後調査問 23 において、争点ごとに単数回答で質問した（表 4.3.1）。

安倍政権の取り組みを「評価する」と回答した割合は、「外交政策」（34.7%）、「景気対策」（22.2%）、「憲法改正」（18.0%）、「年金改革」（8.9%）の順番となった。

カイ二乗検定と残差分析を行い、性別で比較すると「外交政策」「景気対策」「憲法改正」「年金改革」の4争点全てで、「評価する」割合は男性が有意に高かった。「景気対策」「憲法改正」で「評価しない」割合は女性が有意に高かった。「わからない」回答は4つの争点全てで女性の割合が有意に高かった。

年齢層別で比較すると、4争点全てで「評価しない」と回答した割合は、50代・60代で有意に高かった。「景気対策」「年金改革」について「評価する」と回答した割合は、60代で有意に高かった。また、「憲法改正」について「どちらでもない」と回答した割合は30代で有意に高かった。4争点全てで「わからない」と回答した割合は、10・20代、30代で有意に高かった。

分析の結果、主要な争点に関する安倍政権の取り組みを「評価する」割合は男性で高く、評価が「わからない」割合は女性で高い傾向が示された。また、「評価しない」割合は高年齢層で高く、「わからない」割合は若年層で高い傾向も明らかとなった。

表 4.3.1 争点に関する安倍政権の取り組みへの評価（事後問 23） ※単数回答

	全体	性別			年齢層						有意水準		
		男性	女性	p値	10・20代	30代	40代	50代	60代	p値			
景気対策	評価する	22.2%	27.1%	17.2%	0.000	***	20.1%	22.6%	23.3%	18.4%	26.8%	0.000	***
	どちらでもない	29.4%	31.2%	27.5%			30.7%	29.0%	31.7%	30.7%	24.5%		
	評価しない	40.9%	37.1%	44.8%			32.6%	37.3%	39.5%	49.5%	47.4%		
	わからない	7.5%	4.6%	10.4%			16.6%	11.1%	5.5%	1.3%	1.3%		
年金改革	評価する	8.9%	11.6%	6.3%	0.000	***	9.8%	7.3%	6.1%	9.4%	11.9%	0.000	***
	どちらでもない	26.3%	27.4%	25.2%			25.0%	29.9%	27.8%	25.9%	22.9%		
	評価しない	57.6%	56.1%	59.2%			50.0%	51.6%	60.8%	63.1%	64.2%		
	わからない	7.1%	5.0%	9.3%			15.2%	11.1%	5.2%	1.6%	1.0%		
憲法改正	評価する	18.0%	24.8%	11.2%	0.000	***	15.2%	15.6%	21.0%	16.8%	21.6%	0.000	***
	どちらでもない	32.5%	32.0%	33.0%			29.3%	38.9%	33.3%	33.3%	28.1%		
	評価しない	40.8%	37.9%	43.7%			37.8%	32.2%	38.8%	46.6%	49.4%		
	わからない	8.8%	5.3%	12.2%			17.7%	13.4%	6.8%	3.2%	1.0%		
外交政策	評価する	34.7%	39.8%	29.7%	0.000	***	28.3%	36.9%	38.8%	33.0%	37.7%	0.000	***
	どちらでもない	28.5%	27.7%	29.3%			28.5%	31.5%	27.8%	30.4%	24.2%		
	評価しない	28.6%	26.9%	30.3%			26.1%	18.5%	26.9%	34.6%	37.4%		
	わからない	8.2%	5.6%	10.8%			17.1%	13.1%	6.5%	1.9%	0.6%		
n	1610	804	806	-	-	368	314	309	309	310	-	-	

※有意水準の欄について、カイ二乗検定の結果、***はp<.001で有意で有意傾向であることを表す。

※表中の太字は、残差分析の結果、p<.05で有意であることを表す。黒字は正、赤字は負を表す。

5. 争点への態度

5.1 争点への態度

重視する争点とは別に 10 の争点への賛否について、事前調査、事後調査で、それぞれ「賛成」「やや賛成」「どちらでもない」「やや反対」「反対」の 5 件法で確認した。「賛成」「やや賛成」を「賛成」、「やや反対」「反対」を「反対」として、事前調査の分布を全体・性別・年齢層別で確認したものが表 5.1.1 である。

「(1)消費税引き上げ」については、全体で「反対」が 54.2%と過半数が反対している。性別では女性で「反対」が多く、男性で「反対」が少ない傾向がみられた。年齢層別では 40 代で「賛成」が少なく、60 代で「賛成」が多く「反対」が少ない傾向がみられた。

「(2)教育の無償化」については、全体で「賛成」が 58.3%と過半数が賛成している。性別では差はみられなかったが、年齢層別では、18-29 歳、30 代で「反対」が少なく「賛成」が多い一方で、40 代 50 代では「賛成」が多い傾向がみられた。

「(3)年金支給年齢の引き上げ」については、全体では「反対」(47.1%)が最も多かった。性別では差がみられなかったが、年齢層別では 18-29 歳と 60 代で「反対」が少なく、50 代では「反対」が多く「賛成」が少ない傾向がみられた。

「(4)子育て支援策の拡充」については、全体で「賛成」が 66.5%と約 3 分の 2 が賛成している。性別では差がみられなかったが、「(2)教育の無償化」と同様の傾向で、18-29 歳、30 代で「賛成」が多く、40 代 50 代で「反対」が多く「賛成」が少なかった。

「(5)社会保障(年金、医療、介護等)の拡充」については、全体の 70.7%と 3 分の 2 以上が「賛成」であった。性別では男性で「反対」が多く、女性で「賛成」が多い傾向がみられた。年齢層別では、18-29 歳で「反対」が多く「賛成」が少ない一方で、50 代 60 代で「賛成」が多い傾向がみられた。

「(6)外国との経済連携協定の締結」については、「どちらでもない」が 51.6%と最も多いが、「賛成」も 41.2%と高い数値を示している。性別では、男性が「反対」「賛成」のいずれでも高くなっているが、これは女性が「どちらでもない」と回答している人が多いためであろう。年齢層別では、18-29 歳、30 代で「賛成」が少なく、40 代では「反対」が多く、60 代で「反対」が少なく「賛成」が多い傾向がみられた。

「(7)外国人労働者の受け入れ」については、全体ではやや「どちらでもない」と「賛成」(いずれも 35.5%)が多い。性別では男性で「賛成」が多く、女性で「どちらでもない」が多い傾向がみられた。年齢層別では、18-20 歳では「反対」が少なく「賛成」が多いが、40 代では「賛成」が少ない傾向がみられた。

「(8)原子力発電所の稼働」では「賛成」が 24.8%とやや少ない傾向がみられた。性別では男性で「賛成」が多く、女性で「反対」と「どちらでもない」が多い傾向がみられた。年齢層別では、18-29 歳で「反対」が少なく、「どちらでもない」が多い一方で、50 代 60 代では「反対」が多く「どちらでもない」が少ない傾向がみられた。

「(9)憲法を変えること」については、「反対」が28.0%とやや少ない傾向がみられた。性別では男性で「賛成」が多く、女性で「どちらでもない」が多い傾向がみられた。年齢層別では30代で「反対」が少なく「どちらでもない」が多い一方で、60代では「反対」が多く「どちらでもない」が少ない傾向がみられた。

「(10)普天間基地の野辺古地区への移転」については、「どちらでもない」が56.7%と過半数であった。性別では男性で「賛成」が多く、女性で「どちらでもない」が多い傾向がみられた。年齢層別では、18-29歳、30代で「どちらでもない」が多くそれに伴い賛成、反対が少ない一方で、60代では「賛成」「反対」がともに多く分極化している。

表 5.1.1 全体・性別・年齢層別の争点への態度（事前調査）

		全体	女性	男性	χ^2 値	18-29	30-39	40-49	50-59	60-69	χ^2 値
		(1)消費税引き上げ	反対	54.2%	59.2%	49.1%	30.62 ***	52.2%	58.0%	57.0%	55.7%
	どちらでもない	25.7%	26.1%	25.4%		28.5%	22.6%	27.2%	24.6%	25.2%	
	賛成	20.1%	14.8%	25.5%		19.3%	19.4%	15.9%	19.7%	26.5%	
(2)教育の無償化	反対	15.2%	15.0%	15.4%	0.05	10.9%	10.5%	20.4%	18.4%	16.8%	37.12 ***
	どちらでもない	26.5%	26.6%	26.5%		21.5%	25.5%	26.9%	31.4%	28.4%	
	賛成	58.3%	58.4%	58.1%		67.7%	64.0%	52.8%	50.2%	54.8%	
(3)年金支給年齢の引き上げ	反対	47.1%	48.9%	45.4%	3.32	41.3%	47.5%	49.5%	57.6%	41.0%	26.85 ***
	どちらでもない	36.6%	36.4%	36.8%		39.1%	36.6%	35.9%	31.4%	39.4%	
	賛成	16.3%	14.8%	17.8%		19.6%	15.9%	14.6%	11.0%	19.7%	
(4)子育て支援策の拡充	反対	8.6%	7.9%	9.2%	2.09	7.1%	4.8%	12.3%	12.3%	6.8%	47.96 ***
	どちらでもない	25.0%	23.9%	26.0%		19.3%	22.9%	28.2%	33.3%	22.3%	
	賛成	66.5%	68.1%	64.8%		73.6%	72.3%	59.5%	54.4%	71.0%	
(5)社会保障（年金、医療、介護等）の拡充	反対	5.8%	4.0%	7.6%	13.68 **	8.4%	5.1%	6.8%	6.8%	1.3%	48.33 ***
	どちらでもない	23.5%	21.8%	25.1%		29.9%	27.7%	24.6%	16.5%	17.4%	
	賛成	70.7%	74.2%	67.3%		61.7%	67.2%	68.6%	76.7%	81.3%	
(6)外国との経済連携協定の締結	反対	7.1%	5.3%	9.0%	53.58 ***	7.3%	8.0%	11.3%	5.8%	3.2%	34.51 ***
	どちらでもない	51.6%	60.7%	42.5%		56.8%	56.1%	49.8%	48.2%	46.1%	
	賛成	41.2%	34.0%	48.5%		35.9%	36.0%	38.8%	46.0%	50.6%	
(7)外国人労働者の受け入れ	反対	28.9%	26.4%	31.5%	14.79 ***	24.7%	26.4%	33.3%	33.0%	28.1%	22.94 **
	どちらでもない	35.5%	40.1%	31.0%		31.5%	39.8%	37.2%	35.6%	34.2%	
	賛成	35.5%	33.5%	37.6%		43.8%	33.8%	29.4%	31.4%	37.7%	
(8)原子力発電所の稼働	反対	36.0%	38.6%	33.3%	70.90 ***	27.2%	27.4%	34.3%	42.1%	50.6%	66.10 ***
	どちらでもない	39.3%	45.5%	33.0%		46.5%	49.4%	37.2%	34.0%	27.7%	
	賛成	24.8%	15.9%	33.7%		26.4%	23.2%	28.5%	23.9%	21.6%	
(9)憲法を変えること	反対	28.0%	29.5%	26.5%	40.23 ***	28.0%	15.3%	27.2%	31.4%	38.4%	54.02 ***
	どちらでもない	38.3%	44.0%	32.6%		42.1%	48.7%	35.6%	35.9%	28.4%	
	賛成	33.7%	26.4%	40.9%		29.9%	36.0%	37.2%	32.7%	33.2%	
(10)普天間基地の野辺古地区への移転	反対	22.8%	23.3%	22.3%	103.43 ***	18.2%	16.6%	22.3%	26.5%	31.3%	79.48 ***
	どちらでもない	56.7%	66.1%	47.3%		69.3%	66.6%	55.0%	50.2%	40.0%	
	賛成	20.5%	10.5%	30.5%		12.5%	16.9%	22.7%	23.3%	28.7%	

※ χ^2 値横の記号は、 χ^2 検定の結果、***: p<.001、** : p<.01、* : p<.05、† : p<.10であることを示す。

※性別では χ^2 検定の結果、年齢層別では残差分析の結果、黒太字 : p<.05で高く、赤太字 : p<.05で低いことを示す。

一方で、事後調査の結果を同様に確認した結果が表 5.1.2 である。全体・性別・年齢層別に傾向と

しては大きく変化はしていない。

表 5.1.2 全体・性別・年齢層別の争点への態度（事後調査）

		全体	女性	男性	χ^2 値	18-29	30-39	40-49	50-59	60-69	χ^2 値
		(1)消費税引き上げ	反対	52.2%	55.7%	48.6%	20.61 ***	52.4%	52.5%	55.0%	52.8%
	どちらでもない	24.8%	26.1%	23.6%		26.6%	26.4%	24.6%	23.3%	22.9%	
	賛成	23.0%	18.2%	27.7%		20.9%	21.0%	20.4%	23.9%	29.0%	
(2)教育の無償化	反対	15.6%	16.3%	14.9%	0.89	9.5%	9.9%	22.3%	21.0%	16.5%	47.14 ***
	どちらでもない	27.0%	26.2%	27.9%		26.6%	25.2%	25.2%	32.0%	26.1%	
	賛成	57.4%	57.6%	57.2%		63.9%	65.0%	52.4%	46.9%	57.4%	
(3)年金支給年齢の引き上げ	反対	44.7%	46.0%	43.3%	1.37	38.6%	40.4%	47.2%	56.6%	41.6%	37.23 ***
	どちらでもない	37.6%	37.0%	38.2%		37.8%	40.8%	39.5%	31.4%	38.4%	
	賛成	17.8%	17.0%	18.5%		23.6%	18.8%	13.3%	12.0%	20.0%	
(4)子育て支援策の拡充	反対	7.9%	7.6%	8.2%	0.28	6.0%	4.5%	12.6%	11.3%	5.5%	56.60 ***
	どちらでもない	27.2%	27.5%	26.9%		21.7%	21.7%	32.4%	34.6%	26.8%	
	賛成	64.9%	64.9%	64.9%		72.3%	73.9%	55.0%	54.0%	67.7%	
(5)社会保障（年金、医療、介護等）の拡充	反対	8.2%	5.7%	10.7%	13.41 **	11.1%	9.6%	8.4%	6.8%	4.5%	28.69 ***
	どちらでもない	25.2%	26.2%	24.1%		29.1%	26.8%	27.8%	22.7%	18.7%	
	賛成	66.6%	68.1%	65.2%		59.8%	63.7%	63.8%	70.6%	76.8%	
(6)外国との経済連携協定の締結	反対	7.8%	6.5%	9.2%	44.67 ***	9.2%	7.6%	10.4%	6.8%	4.8%	34.48 ***
	どちらでもない	49.0%	57.3%	40.7%		53.5%	54.8%	49.8%	46.0%	40.0%	
	賛成	43.2%	36.2%	50.1%		37.2%	37.6%	39.8%	47.2%	55.2%	
(7)外国人労働者の受け入れ	反対	29.9%	28.9%	31.0%	7.07 *	22.6%	29.3%	36.2%	33.3%	29.7%	26.37 ***
	どちらでもない	35.1%	38.2%	32.0%		33.7%	35.4%	36.2%	33.7%	36.8%	
	賛成	35.0%	32.9%	37.1%		43.8%	35.4%	27.5%	33.0%	33.5%	
(8)原子力発電所の稼働	反対	37.6%	40.6%	34.7%	84.74 ***	30.4%	24.8%	35.6%	44.7%	54.2%	92.76 ***
	どちらでもない	35.6%	42.6%	28.6%		39.9%	50.3%	37.2%	29.1%	20.3%	
	賛成	26.8%	16.9%	36.7%		29.6%	24.8%	27.2%	26.2%	25.5%	
(9)憲法を変えること	反対	31.6%	34.6%	28.6%	42.49 ***	31.3%	24.2%	28.8%	34.3%	39.7%	29.77 ***
	どちらでもない	36.4%	40.9%	31.8%		39.1%	44.6%	36.6%	34.3%	26.8%	
	賛成	32.0%	24.4%	39.6%		29.6%	31.2%	34.6%	31.4%	33.5%	
(10)普天間基地の辺野古地区への移転	反対	25.0%	25.4%	24.5%	75.84 ***	23.4%	14.3%	26.5%	28.2%	32.9%	79.00 ***
	どちらでもない	53.2%	61.4%	45.0%		60.1%	68.2%	52.4%	47.9%	36.1%	
	賛成	21.8%	13.2%	30.5%		16.6%	17.5%	21.0%	23.9%	31.0%	

※ χ^2 値横の記号は、 χ^2 検定の結果、***：p<.001、**：p<.01、*：p<.05、†：p<.10であることを示す。

※性別では χ^2 検定の結果、年齢層別では残差分析の結果、黒太字：p<.05で高く、赤太字：p<.05で低いことを示す。

5.2 投票の有無による争点への賛否

ここで、投票の有無によって争点への賛否に違いがあるのであろうか。投票に行かなかった人たちの争点に対する態度が、投票に行った人たちの争点に対する態度と異なっている可能性がある。そこで、投票の有無と事後調査の争点への賛否について分析した結果が表 5.2.1 である。分析の結果、「{1}消費税引き上げ」「{5}社会保障（年金、医療、介護等）の拡充」「{6}外国との経済連携協定の締結」では、投票に行っている人ほど賛成の傾向が強い。一方で、「{8}原子力発電所の稼働」「{9}憲法を変え

ること」「(10)普天間基地の辺野古地区への移転」では、投票に行っている人ほど賛成、反対のいずれかの意見を持っている傾向がみられる。

表 5.2.1 投票の有無別の事後の争点への態度

		全体	非投票	投票	χ^2 値
N		1604	496	1108	
(1)消費税引き上げ	反対	52.2%	56.7%	50.3%	15.24 ***
	どちらでもない	24.7%	26.4%	23.9%	
	賛成	23.1%	16.9%	25.8%	
(2)教育の無償化	反対	15.6%	14.9%	15.9%	0.59
	どちらでもない	26.9%	26.2%	27.3%	
	賛成	57.5%	58.9%	56.9%	
(3)年金支給年齢の引き上げ	反対	44.6%	45.4%	44.3%	1.43
	どちらでもない	37.5%	38.5%	37.1%	
	賛成	17.8%	16.1%	18.6%	
(4)子育て支援策の拡充	反対	7.8%	7.5%	7.9%	1.85
	どちらでもない	27.2%	29.4%	26.2%	
	賛成	65.0%	63.1%	65.9%	
(5)社会保障（年金、医療、介護等）の拡充	反対	8.1%	10.1%	7.2%	5.95 †
	どちらでもない	25.0%	26.8%	24.2%	
	賛成	66.9%	63.1%	68.6%	
(6)外国との経済連携協定の締結	反対	7.8%	7.5%	7.9%	26.64 ***
	どちらでもない	48.9%	58.3%	44.7%	
	賛成	43.3%	34.3%	47.4%	
(7)外国人労働者の受け入れ	反対	29.9%	27.2%	31.0%	4.18
	どちらでもない	35.1%	38.5%	33.6%	
	賛成	35.0%	34.3%	35.4%	
(8)原子力発電所の稼働	反対	37.7%	31.5%	40.5%	37.72 ***
	どちらでもない	35.4%	46.4%	30.5%	
	賛成	26.9%	22.2%	29.0%	
(9)憲法を変えること	反対	31.7%	26.2%	34.1%	29.70 ***
	どちらでもない	36.2%	46.0%	31.9%	
	賛成	32.1%	27.8%	34.0%	
(10)普天間基地の辺野古地区への移転	反対	25.0%	20.0%	27.3%	72.72 ***
	どちらでもない	53.1%	68.3%	46.3%	
	賛成	21.9%	11.7%	26.4%	

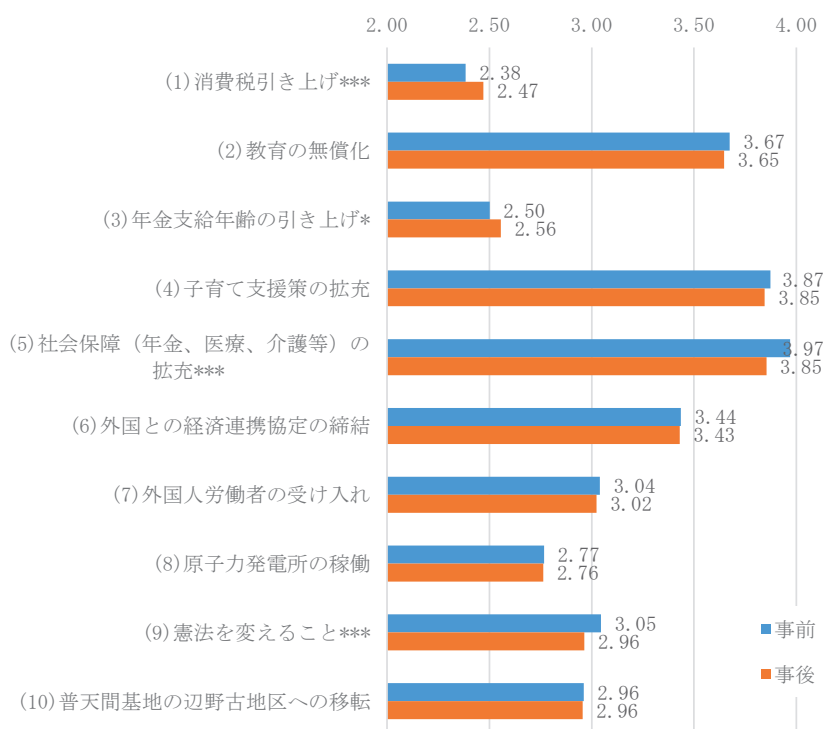
※ χ^2 値横の記号は、 χ^2 検定の結果、*** : $p < .001$ 、** : $p < .01$ 、* : $p < .05$ 、† : $p < .10$ であることを示す。

※性別では χ^2 検定の結果、年齢層別では残差分析の結果、黒太字 : $p < .05$ で高く、赤太字 : $p < .05$ で低いことを示す。

5.3 争点への態度の変化

このような争点態度に関して、選挙期間中に大きな変化はあったのであろうか。それを確認するため、事前調査、事後調査の争点への賛否について、それぞれ「賛成」を5、「やや賛成」を4、「どちらでもない」を3、「やや反対」を2、「反対」を1とし、事後調査と事前調査の平均値の差を確認したものが図 5.3.1 である。

分析の結果、「(1)消費税引き上げ」と「(3)年金支給年齢の引き上げ」については賛成が増加し、「(5)社会保障（年金、医療、介護等）の拡充」と「(9)憲法を変えること」については反対が増加している。



※項目横の記号は、Wilcoxon の順位和検定の結果、*** : $p < .001$ 、* : $p < .05$ で有意差があることを示す。

図 5.3.1 事前調査・事後調査での争点への態度の差

6. 支持政党

支持政党について、選挙後に事後調査問9で質問した。「あなたはふだん、以下の政党をどの程度支持していますか。(それぞれひとつだけ)」との設問を示し、提示した政党について「支持している」「やや支持している」「どちらでもない」「あまり支持していない」「支持していない」「政党名を知らない」の中から1つ回答を選んでもらった。この回答から、「支持している」「やや支持している」を「支持」とし、割合を集計した結果が表6.1である。この結果、支持する割合は、上位から「自由民主党」(31.4%)、「日本維新の会」(24.5%)、「立憲民主党」(18.1%)の順番となった。

カイ二乗検定と残差分析を行ったところ、性別では「自由民主党」「日本維新の会」「公明党」「沖縄社会大衆党」において、男性の支持の割合が有意に高かった。

また、年齢層別で見たところ、「立憲民主党」で50代と60代、「日本維新の会」「日本共産党」「社会民主党」で60代、「自由民主党」で40代、「れいわ新選組」「国民民主党」「希望の党」で10・20代の支持の割合が有意に高い結果となった。

表 6.1 支持政党 (事後問9)

	全体	性別			年齢層							
		男性	女性	p値	有意水準	10・20代	30代	40代	50代	60代	p値	有意水準
自由民主党	31.4%	37.4%	25.3%	0.000	***	25.8%	30.9%	36.2%	29.4%	35.5%	0.020	*
日本維新の会	24.5%	29.7%	19.4%	0.000	***	21.2%	22.9%	23.9%	25.6%	29.7%	0.120	n.s.
立憲民主党	18.1%	18.7%	17.5%	0.544	n.s.	15.8%	12.4%	13.3%	22.0%	27.4%	0.000	***
れいわ新選組	9.4%	10.4%	8.4%	0.168	n.s.	13.6%	8.6%	7.8%	6.8%	9.7%	0.024	*
日本共産党	9.1%	9.3%	8.9%	0.783	n.s.	7.9%	7.0%	7.8%	9.7%	13.5%	0.033	*
国民民主党	8.1%	8.8%	7.3%	0.266	n.s.	11.7%	7.3%	7.4%	5.8%	7.4%	0.057	†
公明党	7.8%	9.2%	6.3%	0.031	*	9.2%	6.4%	8.4%	7.8%	6.8%	0.631	n.s.
社会民主党	6.1%	7.2%	5.1%	0.076	†	7.3%	4.5%	2.6%	5.2%	11.0%	0.000	***
希望の党	3.1%	3.9%	2.4%	0.083	†	5.2%	4.5%	2.6%	1.3%	1.6%	0.011	*
沖縄社会大衆党	2.5%	3.4%	1.7%	0.039	*	3.0%	1.9%	0.3%	2.3%	5.2%	0.004	**
n	1610	804	806	-	-	368	314	309	309	310	-	-

※有意水準の欄について、カイ二乗検定の結果、***はp<.001で有意、**はp<.01で有意、*はp<.05で有意、†はp<.1で有意傾向であることを表す。n.s.はnot significant (非有意)を表す。

※表中の太字は、残差分析の結果、p<.05で有意であることを表す。黒字は正、赤字は負を表す。

また、最も支持する政党について、選挙後に事後問10において単数回答で質問した(表6.2)。対象は、事後問9でいずれかの政党に対して「支持している」または「やや支持している」と回答した人(n=1,025)である。

選挙後に最も支持する割合が高いのは、「自由民主党」(41.7%)、「日本維新の会」(18.0%)、「立憲民主党」(16.2%)の順番となった。

カイ二乗検定と残差分析を行ったところ、性別では「自由民主党」で、男性における最支持の割合が有意に高かった。また、「日本共産党」では女性における最支持の割合が有意に高かった。年齢層別では、「自由民主党」は30代と40代、「立憲民主党」は50代と60代、「日本共産党」と「社会民主党」は60代、「れいわ新選組」「国民民主党」と「希望の党」は10・20代において、最支持の割合が有意に高かった。

分析の結果、「自由民主党」は30代と40代、「立憲民主党」「日本共産党」「社会民主党」は高年齢層、「れいわ新選組」「国民民主党」「希望の党」は若年層など、政党によって最支持の割合が高い年齢層が異なる傾向が示された。

表 6.2 最支持政党（事後問 10） ※単数回答

	全体	性別		年齢層				
		男性	女性	10・20代	30代	40代	50代	60代
自由民主党	41.7%	45.6%	36.8%	37.6%	49.7%	50.3%	39.4%	34.0%
日本維新の会	18.0%	18.5%	17.5%	16.3%	16.4%	15.7%	18.8%	22.0%
立憲民主党	16.2%	16.0%	16.4%	11.4%	10.7%	13.2%	21.6%	22.0%
れいわ新選組	7.5%	6.5%	8.8%	15.8%	5.6%	6.6%	5.8%	4.1%
公明党	5.0%	4.4%	5.7%	5.0%	4.5%	4.6%	6.3%	4.6%
日本共産党	4.7%	3.2%	6.6%	2.5%	4.5%	4.1%	4.3%	7.5%
国民民主党	3.9%	3.2%	4.8%	6.4%	5.1%	4.1%	2.4%	2.1%
社会民主党	1.5%	1.4%	1.5%	1.5%	1.7%	0.5%	0.5%	2.9%
希望の党	1.2%	0.9%	1.5%	3.0%	1.7%	1.0%	0.5%	0.0%
沖縄社会大衆党	0.4%	0.4%	0.4%	0.5%	0.0%	0.0%	0.5%	0.8%
n	1025	568	457	202	177	197	208	241
p値	-	0.059		0.000				
有意水準	-	†		***				

※有意水準の欄について、カイ二乗検定の結果、***は $p < .001$ で有意、†は $p < .1$ で有意傾向であることを表す。
 ※表中の太字は、残差分析の結果、 $p < .05$ で有意であることを表す。黒字は正、赤字は負を表す。

7. メディアの信頼性評価

主要なメディアへの信頼度について、事後調査問 28 で質問した。「あなたは、次の(1)～(4)のメディアの情報を、どの程度、**信頼**できますか。それぞれについて、1～5の中から1つずつ○をつけてください。なお、利用していないメディアについては、大体の印象でお答えください。（それぞれひとつだけ）」との設問を提示し、「非常に信頼できる」「ある程度信頼できる」「どちらともいえない」「あまり信頼できない」「まったく信頼できない」の5件法で選んでもらった。このうち「非常に信頼できる」「ある程度信頼できる」を信頼とし、集計した割合が表 7.1 である。

各メディアを信頼する割合は、「新聞」(51.6%)、「テレビ」(50.1%)、「インターネットのニュースサイト・ニュースアプリ (Yahoo!ニュースなど)」(35.2%)、「SNS 上の情報」(13.9%) となった。

また、カイ二乗検定と残差分析を行った。性別で見ると、「新聞」は女性で信頼する割合が有意に高く、「インターネットのニュースサイト・ニュースアプリ (Yahoo!ニュースなど)」「SNS 上の情報」は男性で信頼する割合が有意に高い結果となった。また、年齢層別に見ると、「新聞」は60代、「テレビ」は50代と60代、「SNS 上の情報」は10・20代で信頼する割合が有意に高かった。

分析の結果、高齢層ではマスメディアの「新聞」「テレビ」を信頼する割合が高く、若年層では「SNS 上の情報」を信頼する割合が高い傾向が示された。

表 7.1 メディアへの信頼 (事後問 28)

	全体	性別				年齢層						
		男性	女性	p値	有意水準	10・20代	30代	40代	50代	60代	p値	有意水準
新聞	51.6%	48.9%	54.2%	0.032	*	46.5%	49.7%	48.2%	54.4%	60.0%	0.004	**
テレビ	50.1%	48.9%	51.4%	0.319	n.s.	40.8%	49.7%	46.6%	57.6%	57.7%	0.000	***
インターネットのニュースサイト・ニュースアプリ (Yahoo!ニュースなど)	35.2%	37.8%	32.5%	0.026	*	36.4%	36.6%	33.7%	35.3%	33.5%	0.876	n.s.
SNS上の情報	13.9%	16.2%	11.7%	0.009	**	22.0%	15.6%	10.4%	11.0%	9.0%	0.000	***
n	1610	804	806	-	-	368	314	309	309	310	-	-

※有意水準の欄について、カイ二乗検定の結果、***は $p < .001$ で有意、**は $p < .01$ で有意、*は $p < .05$ で有意であることを表す。n. s. は not significant (非有意) を表す。

※表中の太字は、残差分析の結果、 $p < .05$ で有意であることを表す。黒字は正、赤字は負を表す。

8. 社会・政治に対する考え方

社会や政治に対する考え方について、選挙後に事後調査問8で質問した。質問としては「政治や生活に対する以下の項目について、あなたの考えをお知らせください。（それぞれひとつだけ）」と提示し、「そう思う」「ややそう思う」「どちらともいえない」「あまりそう思わない」「そう思わない」の5件法で聞いた。この中で「そう思う」「ややそう思う」と回答した割合を集計したものが表8.1である。

表 8.1 政治への考え方（事後問8）

	全体	性別				年齢層						
		男性	女性	p値	有意水準	10・20代	30代	40代	50代	60代	p値	有意水準
いまの日本には、格差が広がっている	78.2%	74.5%	81.9%	0.000	***	72.0%	75.2%	81.2%	82.5%	81.3%	0.002	**
いまの年金制度は維持できない	76.6%	70.8%	82.5%	0.000	***	77.7%	79.9%	79.9%	78.0%	67.1%	0.000	***
政治に関心がある	41.3%	51.0%	31.6%	0.000	***	36.4%	37.9%	37.2%	38.8%	57.1%	0.000	***
与党には政権担当能力がある	33.2%	42.5%	23.8%	0.000	***	26.6%	31.2%	35.0%	33.3%	41.0%	0.002	**
安倍内閣を支持している	25.7%	31.3%	20.0%	0.000	***	21.7%	27.1%	28.5%	24.9%	26.8%	0.301	n.s.
現在の生活に満足している	23.9%	24.5%	23.2%	0.540	n.s.	27.4%	21.3%	19.4%	21.0%	29.4%	0.009	**
安倍政権を信頼している	21.9%	28.0%	15.8%	0.000	***	21.2%	24.2%	19.1%	20.7%	24.2%	0.446	n.s.
いまの日本は、努力すれば報われる社会である	19.1%	21.1%	17.1%	0.040	*	20.7%	19.4%	16.8%	16.2%	22.3%	0.256	n.s.
現在の国内政治に満足している	11.5%	16.3%	6.7%	0.000	***	15.2%	11.5%	9.4%	8.7%	11.9%	0.068	†
いまの景気は良い	10.1%	13.8%	6.3%	0.000	***	12.5%	11.8%	8.1%	8.7%	8.7%	0.199	n.s.
野党には政権担当能力がある	8.9%	10.0%	7.8%	0.132	n.s.	10.6%	8.0%	9.1%	6.8%	9.7%	0.465	n.s.
いまの日本の政治家は、若い人たちのことを考えて政治をしている	8.4%	9.7%	7.1%	0.057	†	9.5%	9.6%	8.1%	7.1%	7.4%	0.695	n.s.
n	1610	804	806	-	-	368	314	309	309	310	-	-

※有意水準の欄について、カイ二乗検定の結果、***はp<.001で有意、**はp<.01で有意、*はp<.05で有意、†はp<.1で有意傾向であることを表す。n.s.はnot significant（非有意）を表す。

※表中の太字は、残差分析の結果、p<.05で有意であることを表す。黒字は正、赤字は負を表す。

集計の結果、「いまの日本には、格差が広がっている」（78.2%）「いまの年金制度は維持できない」（76.6%）について、8割近くが回答していた。

また、カイ二乗検定と残差分析を行った。性別で見たところ、「いまの日本には、格差が広がっている」「いまの年金制度は維持できない」について女性の回答の割合が有意に高かった。一方、「政治に関心がある」「与党には政権担当能力がある」「安倍内閣を支持している」「安倍政権を信頼している」「いまの日本は、努力すれば報われる社会である」「現在の国内政治に満足している」「いまの景気は良い」については男性の回答の割合が有意に高かった。年齢層別に見ると、「政治に関心がある」「与党には政権担当能力がある」「現在の生活に満足している」と回答した割合が60代で有意に高かった。また、「いまの日本には、格差が広がっている」との回答は50代で有意に高かった。さらに、「現在の国内政治に満足している」と回答した割合は10・20代で有意に高かった。

分析の結果、政治への関心や安倍内閣への支持は、男性で高い傾向が明らかになった。また、高齢者において、政治への関心や、現在の生活に満足する割合が高い傾向も明らかとなった。

9. 政治的有効性感覚

政治的有効性感覚について、選挙後の事後調査問7で質問した。設問として「政治に対する以下の項目について、あなたの考えをお知らせください。（それぞれひとつだけ）」と提示し、金（2014）を踏まえ作成した指標について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらともいえない」「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の5件法で聞いた。「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が、表9.1である。集計の結果、「国会議員は、大ざっぱに言って、当選したらすぐ国民のことを考えなくなる（以下、国会議員）」（72.2%）「今の日本の政治家は、あまり私たちのことを考えていない（以下、政治家）」（70.0%）、「政治とか政府とかは、あまりに複雑なので、自分には何をやっているのかよく理解できないことがある（以下、政治複雑）」（55.2%）、「自分には政府のすることに対して、それを左右する力はない（以下、政府左右）」（53.5%）、「選挙では大勢の人が投票するものだから、自分一人くらいしてもしなくてもどちらでもかまわない（以下、選挙投票）」（26.4%）、「私は、政治に関わる十分な資質が自分自身にあると考える（以下、政治資質）」（22.9%）となった¹。

残差分析とカイ二乗検定を行い、性別では「国会議員」「政治家」「政治複雑」「政府左右」について女性の回答の割合が有意に高く、「政治資質」は男性の回答の割合が有意に高かった。年齢層別では「政治複雑」「政府左右」「選挙投票」で10・20代、30代の回答の割合が有意に高かった。「政治資質」は、60代で回答の割合が有意に高かった。外的有効性感覚の「国会議員」「政治家」は女性で低く、内的有効性感覚の「政治複雑」「政府左右」は女性と若年層で低い傾向が示された（表9.1は逆転項目）。

表 9.1 政治的有効性感覚（事後問7）

	全体	性別				年齢層						
		男性	女性	p値	有意水準	10・20代	30代	40代	50代	60代	p値	有意水準
国会議員は、大ざっぱに言って、当選したらすぐ国民のことを考えなくなる	72.2%	68.9%	75.6%	0.003	**	68.8%	73.9%	70.2%	74.8%	74.2%	0.303	n.s.
今の日本の政治家は、あまり私たちのことを考えていない	70.0%	64.8%	75.2%	0.000	***	69.6%	69.4%	68.3%	73.8%	69.0%	0.598	n.s.
政治とか政府とかは、あまりに複雑なので、自分には何をやっているのかよく理解できないことがある	55.2%	41.7%	68.6%	0.000	***	64.9%	60.5%	54.4%	50.5%	43.5%	0.000	***
自分には政府のすることに対して、それを左右する力はない	53.5%	49.0%	58.1%	0.000	***	58.4%	59.2%	49.8%	56.0%	43.2%	0.000	***
選挙では大勢の人が投票するものだから、自分一人くらいしてもしなくてもどちらでもかまわない	26.4%	25.4%	27.4%	0.352	n.s.	35.9%	34.1%	22.3%	23.0%	14.8%	0.000	***
私は、政治に関わる十分な資質が自分自身にあると考える	22.9%	30.2%	15.5%	0.000	***	26.1%	22.6%	17.8%	20.1%	27.1%	0.024	*
n	1610	804	806	-	-	368	314	309	309	310	-	-

※有意水準の欄について、カイ二乗検定の結果、***はp<.001で有意、**はp<.01で有意、*はp<.05で有意であることを表す。n.s.はnot significant（非有意）を表す。

※表中の太字は、残差分析の結果、p<.05で有意であることを表す。黒字は正、赤字は負を表す。

参考文献：金 允希（2014）, 日本における政治的有効性感覚指標の再検討 ―指標の妥当性と政治参加への影響力の観点から―, 法学政治学論究：法律・政治・社会, 100, 121-154

¹ 「国会議員」「政治家」は外的有効性感覚、「政治複雑」「政府左右」は政治的有効性感覚を表す。また、「政治資質」以外は逆転項目である。

10. 政治知識

10.1 統治の仕組みに関する知識

政治知識を測定するにあたり、今井（2008）を踏まえて「統治の仕組み」「政党政治の動向」「政治リーダー」に関する設問を設けた。また、あわせて選挙期間中の争点に関する設問を設けた。

統治の仕組みについて、事前調査問 15・16・17・19 で質問した（表 10.1.1）。正答率は「裁判の制度名（正解：裁判員制度）」（75.7%）、「内閣が責任を負う対象（正解：国会）」（61.4%）、「参議院議員の任期（正解：6年）」（42.1%）、「国民の権利と義務（正解：働くこと）」（13.5%）だった²。

カイ二乗検定と残差分析では「内閣の責任対象」「参議院議員の任期」「国民の権利と義務」で男性の正答率が有意に高かった。年齢層別では「裁判の制度名」は 50 代、「内閣の責任対象」は 50 代と 60 代、「参議院議員の任期」は 60 代、「国民の権利と義務」は 10・20 代と 30 代で有意に高かった。

「国民の権利と義務」については若年層で正答率が高く、その他の知識については、比較的高い年齢層で正答率が高い傾向が示された。

表 10.1.1 統治の仕組みに関する知識（事前問 15・16・17・19）

	全体	性別				年齢層						
		男性	女性	p値	有意水準	10・20代	30代	40代	50代	60代	p値	有意水準
裁判の制度名	75.7%	77.6%	73.7%	0.067	†	70.1%	75.5%	74.1%	80.3%	79.4%	0.015	*
内閣の責任対象	61.4%	70.0%	52.9%	0.000	***	53.5%	53.8%	57.6%	68.9%	74.8%	0.000	***
参議院議員の任期	42.1%	51.5%	32.8%	0.000	***	32.9%	27.1%	41.4%	44.0%	67.1%	0.000	***
国民の権利と義務	13.5%	17.2%	9.9%	0.000	***	16.8%	17.2%	12.6%	12.3%	8.1%	0.004	**
n	1610	804	806	—	—	368	314	309	309	310	—	—

※有意水準の欄について、カイ二乗検定の結果、***は p<.001 で有意、**は p<.01 で有意、*は p<.05 で有意、†は p<.1 で有意傾向であることを表す。

※表中の太字は、残差分析の結果、p<.05 で有意であることを表す。黒字は正、赤字は負を表す。

10.2 政党政治の動向に関する知識

政党政治の動向に関する知識として、参院選で各政党が掲げているキャッチコピー・キャッチフレーズを事前問 23、公約・マニフェストを事後調査問 13 で提示し、選択肢の中から該当する政党名を回答してもらった（表 10.2.1）³。

政党のコピーについては「日本の明日を切り拓く。（正解：自由民主党）」（18.5%）、「小さな声を、聴く力。（正解：公明党）」（11.9%）、「つくろう、新しい答え。（正解：国民民主党）」（7.4%）の正答率となった。公約・マニフェストについては「自由民主党」（40.3%）、「日本維新の会」（16.8%）、「立憲民主党」（4.7%）の正答率となった。

カイ二乗検定と残差分析の結果、政党のコピーについては「公明党」と「国民民主党」、公約・マ

² この他に、日本で裁判を受けられる最大の回数と、参議院議員の定数についても質問を行った。ただし、前者については三審制に例外があり（簡易裁判所を第一審とした場合）、後者については定数の改正時期にあたっていたため、分析対象からは除外した。

³ この他に、「消費税の増税」「原発稼働」「憲法改正」「普天間基地の移転」について、「自由民主党」と「立憲民主党」の政策の位置を聞く設問を設けたが、紙幅の関係もあり分析結果は割愛する。

ニフェストについては「自由民主党」「日本維新の会」「立憲民主党」で男性の正答率が高かった。年齢層別では、政党のコピーについて「国民民主党」で有意に30代の正答率が高かった。また、公約・マニフェストについては、「自由民主党」が50代と60代、「日本維新の会」が60代、「立憲民主党」は10・20代において正答率が高かった。「自由民主党」「日本維新の会」では、高年齢層において公約・マニフェストについての正答率が高い傾向が示された。

表 10.2.1 政党政治の動向に関する知識（事前問 23、事後問 13）

	全体	性別				年齢層							
		男性	女性	p値	有意水準	10・20代	30代	40代	50代	60代	p値	有意水準	
政党のコピー	自由民主党	18.5%	20.4%	16.6%	0.051	†	15.8%	21.7%	17.8%	17.5%	20.3%	0.297	n.s.
	公明党	11.9%	13.8%	9.9%	0.016	*	12.0%	11.5%	9.1%	12.9%	13.9%	0.418	n.s.
	国民民主党	7.4%	9.1%	5.7%	0.010	**	7.6%	10.5%	7.4%	3.9%	7.4%	0.040	*
公約・マニフェスト	自由民主党	40.3%	46.6%	34.0%	0.000	***	29.6%	29.6%	39.2%	45.3%	60.0%	0.000	***
	日本維新の会	16.8%	20.9%	12.7%	0.000	***	8.4%	11.8%	15.9%	18.8%	30.6%	0.000	***
	立憲民主党	4.7%	5.8%	3.6%	0.033	*	7.6%	3.8%	2.6%	2.6%	6.5%	0.003	**
n	1610	804	806	-	-	368	314	309	309	310	-	-	

※有意水準の欄について、カイ二乗検定の結果、***はp<.001で有意、**はp<.01で有意、*はp<.05で有意、†はp<.1で有意傾向であることを表す。n.s.はnot significant（非有意）を表す。

※表中の太字は、残差分析の結果、p<.05で有意であることを表す。黒字は正、赤字は負を表す。

10.3 政治リーダーに関する知識

政治リーダーに関する知識について、事前問 24、事後問 14 で質問した。人名を挙げて、その役職を質問した正答率が表 10.3.1 である。正答率は「ドナルド・トランプ（正解：アメリカ大統領）」（95.6%）、「ウラジーミル・プーチン（正解：ロシア大統領）」（89.3%）、「麻生太郎（正解：副総理・財務大臣）」（75.1%）、「菅義偉（正解：内閣官房長官）」（72.8%）、「エマニュエル・マクロン（正解：フランス大統領）」（66.1%）、「河野太郎（正解：外務大臣）」（64.5%）、「大島理森（正解：衆議院議長）」（17.8%）、「アントニオ・グテーレス（正解：国連事務総長）」（17.3%）となった。

カイ二乗検定と残差分析の結果、性別で見ると「ドナルド・トランプ」以外は全て男性の正答率の方が有意に高い結果となった。年齢層別に見ると、「ドナルド・トランプ」と「アントニオ・グテーレス」は60代、それ以外は50代と60代が有意に高い結果となった。

この結果から、政治リーダーに関する知識は、男性と高年齢層で高い傾向が明らかとなった。

表 10.3.1 政治リーダーに関する知識（事前問 24、事後問 14）

	全体	性別				年齢層						
		男性	女性	p値	有意水準	10・20代	30代	40代	50代	60代	p値	有意水準
ドナルド・トランプ	95.6%	95.1%	96.0%	0.390	***	92.1%	94.3%	97.4%	96.4%	98.4%	0.000	***
ウラジーミル・プーチン	89.3%	91.8%	88.8%	0.001	***	80.7%	86.0%	90.6%	93.5%	97.4%	0.000	***
麻生太郎	75.1%	82.2%	68.0%	0.000	***	66.3%	64.6%	72.8%	83.5%	90.0%	0.000	***
菅義偉	72.8%	79.7%	65.9%	0.000	***	66.6%	63.1%	68.6%	79.3%	87.7%	0.000	***
エマニュエル・マクロン	66.1%	72.4%	59.8%	0.000	***	47.6%	54.8%	64.4%	78.3%	89.0%	0.000	***
河野太郎	64.5%	72.9%	56.2%	0.000	***	42.7%	52.2%	68.9%	76.4%	86.8%	0.000	***
大島理森	17.8%	24.6%	11.0%	0.000	***	7.3%	12.1%	14.9%	22.3%	34.5%	0.000	***
アントニオ・グテーレス	17.3%	22.4%	12.3%	0.000	***	12.5%	13.4%	15.2%	20.4%	26.1%	0.000	***
n	1610	804	806	-	-	368	314	309	309	310	-	-

※有意水準の欄について、カイ二乗検定の結果、***はp<.001で有意であることを表す。

※表中の太字は、残差分析の結果、p<.05で有意であることを表す。黒字は正、赤字は負を表す。

10.4 選挙期間中の争点に関する知識

選挙期間中の争点に関する知識について、事前問 25・26・27・28・29、事後問 15・16・17・18・19 で質問した (表 10.4.1)。正答率は「引き上げ後の消費税率 (正解: 10%)」(96.2%)、「G20 の開催地 (正解: 大阪)」(90.2%)、「老後に年金だけでは不足するとされる金額 (正解: 2000 万円)」(87.1%)、「日本で開催された国際会議の名称 (正解: G20)」(85.1%)、「戦力不保持を定めた憲法の条文 (正解: 第 9 条)」(81.7%)、「北方 4 島に属する島 (正解: 色丹島)」(64.8%)、「憲法改正発議に必要な議席数 (正解: 3 分の 2 以上)」(64.7%)、「イージス・アショアの配備予定県 (正解: 秋田県)」(37.8%)、「年金の報告書を取りまとめた審議会のある政府機関 (正解: 金融庁)」(35.2%)、「幼児教育・保育無償化の時期 (正解: 2019 年 10 月)」(22.0%) となった。

カイ二乗検定と残差分析の結果、「幼児教育・保育無償化の時期」について女性が有意に高かった。この他、「引き上げ後の消費税率」「G20 の開催地」以外は全て男性の正答率が有意に高かった。

年齢層別で見ると、「老後に年金だけでは不足するとされる金額」(40 代、50 代、60 代)、「引き上げ後の消費税率」「G20 の開催地」「戦力不保持を定めた憲法の条文」「北方 4 島に属する島」「イージス・アショアの配備予定県」(いずれも 50 代、60 代)、「日本で開催された国際会議の名称」「憲法改正発議に必要な議席数」「年金の報告書を取りまとめた審議会のある政府機関」(60 代)、「幼児教育・保育無償化の時期」(30 代) が有意に高い結果となった。

「幼児教育・保育無償化の時期」については、子育てへの関心が高いと考えられる 30 代で、他の知識については高年齢層で正答率が高い結果となった。また、「幼児教育・保育無償化の時期」の正答率は子育てへの関心が高いと考えられる女性で高く、「引き上げ後の消費税率」「G20 の開催地」以外のその他の知識は、男性の正答率の方が高かった。

表 10.4.1 選挙期間中の争点の知識 (事前問 25・26・27・28・29、事後問 15・16・17・18・19)

	全体	性別				年齢層						
		男性	女性	p値	有意水準	10・20代	30代	40代	50代	60代	p値	有意水準
引き上げ後の消費税率	96.2%	95.6%	96.8%	0.236	n.s.	91.8%	96.5%	96.1%	98.7%	98.7%	0.000	***
G20の開催地	90.2%	91.4%	89.0%	0.097	†	83.2%	86.8%	91.3%	94.2%	96.8%	0.000	***
老後に年金だけでは不足するとされる金額	87.1%	89.9%	84.2%	0.001	***	70.7%	82.8%	93.2%	93.5%	98.4%	0.000	***
日本で開催された国際会議の名称	85.1%	87.8%	82.4%	0.002	**	82.6%	80.6%	84.8%	85.4%	92.6%	0.000	***
戦力不保持を定めた憲法の条文	81.7%	88.8%	74.7%	0.000	***	71.5%	75.2%	83.8%	86.1%	94.2%	0.000	***
北方4島に属する島	64.8%	74.5%	55.1%	0.000	***	48.1%	51.3%	66.3%	75.1%	86.5%	0.000	***
憲法改正発議に必要な議席数	64.7%	74.9%	54.6%	0.000	***	58.7%	57.0%	65.4%	67.6%	79.7%	0.000	***
イージス・アショアの配備予定県	37.8%	48.6%	27.0%	0.000	***	23.4%	24.5%	39.8%	46.0%	58.4%	0.000	***
年金の報告書を取りまとめた審議会のある政府機関	35.2%	41.3%	29.2%	0.000	***	27.7%	34.4%	35.0%	35.0%	45.5%	0.000	***
幼児教育・保育無償化の時期	22.0%	18.2%	25.8%	0.000	***	18.5%	40.1%	21.0%	15.2%	15.5%	0.000	***
n	1610	804	806	-	-	368	314	309	309	310	-	-

※有意水準の欄について、カイ二乗検定の結果、***は p<.001 で有意、**は p<.01 で有意、†は p<.1 で有意傾向であることを表す。n.s.は not significant (非有意) を表す。

※表中の太字は、残差分析の結果、p<.05 で有意であることを表す。黒字は正、赤字は負を表す。

参考文献：今井亮佑(2008)，政治的知識の構造 (特集 21COE-GLOPE 世論調査)，早稲田政治経済学雑誌，370，39-52

11. フェイクニュースへの接触

本調査では、2019年参院選選挙運動期間中にインターネット上で選挙関連情報に接触していた回答者（事後問25(6)～(13)、(19)のいずれかに選挙期間中に1回以上接触した回答者）を母数として（n=994）、政党・候補者に関するフェイクニュースへの接触状況を質問した（事後問37）。フェイクニュースの定義は「明らかに虚偽やデマと思われる情報」（ただしマスメディア等で報道されてから知ったものは除く）である。

表11.1は事後問37の回答（見た、見ていない、わからない）を2値変数（見た、見ていない／わからない）に変換し、フェイクニュース接触率を性別・年齢層別に比較したものである。

表 11.1 性別・年齢層別のフェイクニュース接触率

全体	性別		年齢層別				
	男性	女性	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳
2.3%	2.4%	2.1%	4.0%	2.5%	3.2%	0.0%	1.1% †

χ^2 の行は χ^2 検定の結果 † : p<0.1、* : p<0.05、** : p<0.01、*** : p<0.001

フェイクニュース接触率は2.3%であり、性別・年齢層別で接触率に有意な差は見られなかった。

この接触率は橋元ら（2018）の2017年衆院選調査で報告されている接触率（15.9%）と比べて大幅に低い水準である。2017年調査ではフェイクニュースを「ウソのニュースや事実かどうか疑わしいニュース」と定義していたため、2017年調査と2019年調査の接触率の差は、フェイクニュースの定義の違いによるものではないか。

橋元良明・小笠原盛浩・河井大介・長濱憲（2018）「2017年衆議院選挙における投票行動と情報行動：年齢層別比較を中心に」『東京大学大学院情報学環情報学研究 調査研究編』東京大学大学院情報学環，34，1-59.

【選挙とメディア利用に関するアンケート】（基本属性）

N=1,610

<年齢層・性別の分布>

	18-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	合計
男性	31	152	158	154	155	154	804
女性	30	155	156	155	154	156	806
合計	61	307	314	309	309	310	1,610

居住地域	%
北海道	5.28
東北地方	6.02
関東地方	37.14
中部地方	15.96
近畿地方	18.51
中国地方	5.59
四国地方	2.48
九州地方	9.01

婚姻有無	%
未婚	41.49
既婚	58.51

子供有無	%
子供なし	49.01
子供あり	50.99

世帯収入 (n=1,397)	%
200万未満	7.66
200～400万未満	21.98
400～600万未満	23.34
600～800万未満	14.53
800～1000万未満	9.02
1000～1200万未満	5.8
1200～1500万未満	2.15
1500～2000万未満	1.5
2000万円以上	0.43
わからない	13.6

職業	%
公務員	3.79
経営者・役員	1.61
会社員(事務系)	13.35
会社員(技術系)	11.61
会社員(その他)	13.91
自営業	3.91
自由業	1.93
専業主婦(主夫)	18.51
パート・アルバイト	12.73
学生	6.27
その他	2.8
無職	9.57

個人収入 (n=1,397)	%
200万未満	42.16
200～400万未満	24.91
400～600万未満	13.96
600～800万未満	5.94
800～1000万未満	3.08
1000～1200万未満	1.72
1200～1500万未満	0.36
1500～2000万未満	0.36
2000万円以上	0.14
わからない	7.37

【選挙とメディア利用に関するアンケート調査】（事前調査）

※調査期間：2019年7月2日（火）～3日（水）（公示日前）

- 問1 以下のメディアについて、ふだん1日平均どのくらい利用していますか。（半角数値）
 ※利用していない人は、時間、分の欄ともに「0」を入力ください。
 ※「分」の方は最大「59」までにてお考えください。

	ふだん (1日平均)	標準 偏差	N
1. テレビを見る	168.40	137.65	1,584
2. テレビでニュースなどの報道番組を見る	54.98	51.23	1,584
3. 新聞を読む（インターネットは含まない）	10.76	18.03	1,606
4. パソコンやタブレット型端末でインターネットを利用する	109.94	127.34	1,574
5. パソコンやタブレット型端末でインターネットの <u>ニュース</u> を見る	19.02	26.69	1,574
6. スマートフォンや携帯電話でインターネットを利用する	87.50	100.79	1,568
7. スマートフォンや携帯電話でインターネットの <u>ニュース</u> を見る	20.08	25.27	1,568

- 問2 あなたは以下の SNS をどの程度利用していますか。それぞれについてあてはまるものを1つ選んでください。（それぞれひとつだけ）
 ※ご自身で投稿していなくても閲覧しているだけでも「利用」とお考えください。
 ※アプリのインストールのみで起動していない場合は、利用に含みません。
 ※アカウント有無は不問です。

	利用している					利用してい ない
	1日に 2回以上	1日に 1回程度	週に 数回程度	月に 数回程度	それ 以下	
1. LINE（ライン）※LINE ニュースを除く	42.67	15.65	8.45	3.11	3.66	26.46
2. Facebook（フェイスブック）	7.89	8.82	8.88	5.65	9.44	59.32
3. Twitter（ツイッター）	21.24	9.38	8.26	3.79	7.14	50.19
4. Instagram（インスタグラム）	18.14	7.14	5.78	4.78	5.34	58.82
5. YouTube（ユーチューブ）	21.86	14.72	22.24	13.04	12.24	15.90
6. ニコニコ動画	2.05	2.92	4.29	5.4	14.16	71.18

<問2で「1日に2回以上」を選択したもののみ>

- 問3 前問で SNS を1日に2回以上利用していると答えた方にお聞きします。具体的な利用回数をご記入ください。
 ※ご自身で投稿していなくても閲覧しているだけでも「利用」とお考えください。
 ※アプリのインストールのみで起動していない場合は、利用に含みません。
 ※アカウント有無は不問です。

	回数	標準偏差	n
1. LINE（ライン）※LINE ニュースを除く	9.55	9.91	685
2. Facebook（フェイスブック）	5.70	6.51	127
3. Twitter（ツイッター）	9.10	11.29	342
4. Instagram（インスタグラム）	8.45	8.48	292
5. YouTube（ユーチューブ）	7.28	11.69	352
6. ニコニコ動画	4.79	3.00	33

<問2で「利用していない」を選択しなかったもののみ>

問4 あなたは、以下の SNS で政治に関する投稿やニュースを見ることはありますか。それぞれについてあてはまるものを1つ選んでください。(それぞれひとつだけ)

	よく見る	たまに見る	あまり見ない	まったく見ない	n
1. LINE (ライン) ※LINE ニュースを除く	15.12	24.66	21.96	38.26	1,184
2. Facebook (フェイスブック)	8.09	19.85	27.94	44.12	655
3. Twitter (ツイッター)	17.96	27.06	23.07	31.92	802
4. Instagram (インスタグラム)	11.92	11.61	21.12	55.35	663
5. YouTube (ユーチューブ)	11.52	16.62	22.75	49.11	1,354
6. ニコニコ動画	3.88	14.01	27.37	54.74	464

問5 あなたは、前回の参議院選挙(2016年7月10日投票)、衆議院選挙(2017年10月22日投票)で、投票しましたか。(それぞれひとつだけ)

	投票した	投票しなかった	選挙権がなかった	覚えていない
1. 2016年7月10日投票の参議院選挙	57.64	21.49	6.58	14.29
2. 2017年10月22日投票の衆議院選挙	59.63	22.42	5.09	12.86

※2016年7月10日投票の参議院選挙は、20歳以下は選挙権がなかったため、「選挙権がなかった」に記録した。

※2017年10月22日投票の衆議院選挙は、18歳は選挙権がなかったため、「選挙権がなかった」に記録した。

問6 政治的立場には**保守的傾向**、**革新的傾向**があるといわれています。それぞれ、保守的を「0」、中立を「5」、革新的を「10」とした場合に、あなたの立場や、下記の政党の立場に近いと思うものをお知らせください。(それぞれひとつだけ)

	保守的					中立					革新的		わからない
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
(1)あなたの立場	6.02	2.48	5.28	6.65	6.40	48.01	4.60	4.66	2.55	0.75	1.55	11.06	
(2)自由民主党	18.01	7.33	9.75	9.25	6.71	20.43	4.47	2.73	1.43	0.62	1.30	17.95	
(3)公明党	8.39	4.91	9.50	10.43	8.70	25.09	4.10	2.24	1.30	0.31	0.81	24.22	
(4)立憲民主党	3.66	1.12	2.05	4.47	5.78	23.11	10.62	10.19	6.52	1.80	4.16	26.52	
(5)国民民主党	3.98	1.18	3.54	5.59	6.09	28.45	9.63	5.47	3.73	0.50	1.55	30.31	
(6)日本共産党	6.77	1.61	4.04	4.84	3.98	15.78	4.10	6.96	6.15	4.10	14.97	26.71	
(7)日本維新の会	4.29	2.55	4.72	7.14	6.83	20.56	8.20	10.00	5.90	2.92	5.03	21.86	

問7 政治的立場には**保守傾向**、**リベラル傾向**があるといわれています。それぞれ、保守を「0」、中立を「5」、リベラルを「10」とした場合に、あなたの立場や、下記の政党の立場に近いと思うものをお知らせください。(それぞれひとつだけ)

	保守的					中立					リベラル		わからない
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
(1)あなたの立場	5.09	2.17	5.53	6.40	6.96	43.42	4.84	3.98	3.23	0.75	1.74	15.90	
(2)自由民主党	14.97	7.02	9.07	9.07	7.76	17.89	4.47	2.36	1.49	0.62	1.18	24.10	
(3)公明党	7.83	4.53	7.58	10.37	10.62	21.99	4.16	1.99	1.18	0.37	0.99	28.39	
(4)立憲民主党	2.48	1.30	2.24	5.28	6.77	20.25	10.12	8.01	6.65	1.80	5.65	29.44	
(5)国民民主党	3.17	0.93	3.66	5.59	7.89	22.73	10.43	6.65	2.30	1.18	2.61	32.86	
(6)日本共産党	5.09	1.49	3.42	4.72	5.59	14.97	6.58	5.47	5.96	3.98	12.11	30.62	
(7)日本維新の会	3.98	2.17	4.78	6.96	7.14	20.37	9.63	7.83	4.91	1.43	3.54	27.27	

問8 政治に対する以下の項目について、あなたの考えをお知らせください。(それぞれひとつだけ)

	そう思う	どちらかとい えはそう思う	どちらとも いえない	ない えはそう思わ ない	どちらかとい えはそう思わ ない	そう思わない
1. 選挙では大勢の人が投票するものだから、自分一人くらいしてもしなくてもどちらでもかまわない	11.55	18.14	24.91	19.13	26.27	
2. 自分には政府のすることに対して、それを左右する力はない	33.29	28.26	24.72	8.57	5.16	
3. 私は、政治に関わる十分な資質が自分自身にあると考える	5.53	11.80	30.25	24.04	28.39	
4. 政治とか政府とかは、あまりに複雑なので、自分には何をやっているのかよく理解できないことがある	21.80	36.27	23.29	12.80	5.84	
5. 国会議員は、大ざっぱに言って、当選したらすぐ国民のことを考えなくなる	44.22	32.17	18.70	3.54	1.37	
6. 今の日本の政治家は、あまり私たちのことを考えていない	43.42	30.25	19.44	5.47	1.43	

問9 政治や生活に対する以下の項目について、あなたの考えをお知らせください。(それぞれひとつだけ)

	そう思う	やや そう思う	いもど いちら えらと えな	うあ 思ま りな そ	思わ ない そ	そう 思わ ない
1. 政治に関心がある	12.24	27.45	27.95	18.01	14.35	
2. 現在の国内政治に満足している	1.30	7.52	28.57	29.32	33.29	
3. 現在の生活に満足している	4.66	20.99	26.65	24.41	23.29	
4. いまの景気は良い	1.12	9.32	24.22	33.29	32.05	
5. いまの日本は、努力すれば報われる社会である	2.73	15.09	28.88	28.26	25.03	
6. いまの日本には、格差が広がっている	43.17	35.65	15.59	4.10	1.49	
7. いまの年金制度は維持できない	50.06	29.07	14.91	4.41	1.55	
8. 安倍政権を信頼している	4.53	17.20	30.68	20.12	27.45	
9. 安倍内閣を支持している	7.14	16.58	33.54	16.15	26.58	
10. 与党には政権担当能力がある	9.19	20.81	41.18	15.71	13.11	
11. 野党には政権担当能力がある	1.37	6.34	35.22	24.29	32.80	
12. いまの日本の政治家は、若い人たちのことを考えて政治をしている	1.30	6.27	23.42	36.02	32.98	

問10 あなたはふだん、以下の政党をどの程度支持していますか。(それぞれひとつだけ)

	支持 している	やや支持 している	どちらでもな い	あまり 支持していない	支持 していない	政党名を知ら ない
1. 自由民主党	7.89	18.14	34.22	11.12	27.27	1.37
2. 公明党	1.43	3.66	32.11	15.28	45.90	1.61
3. 立憲民主党	2.55	8.57	33.98	15.53	34.16	5.22
4. 国民民主党	0.68	4.78	34.91	18.20	35.90	5.53
5. 日本共産党	1.43	5.84	28.63	15.34	46.58	2.17
6. 日本維新の会	3.11	13.66	36.96	15.53	28.88	1.86
7. 社会民主党	0.68	3.54	32.42	16.46	42.24	4.66
8. 希望の党	0.56	2.42	27.76	13.79	39.94	15.53
9. 沖縄社会大衆党	0.99	1.93	15.28	6.02	17.95	57.83
10. れいわ新選組	1.12	2.24	15.34	6.15	20.68	54.47

<前問で、いずれかの政党に対して「支持している」または「やや支持している」の人> (n=793)

問11 あなたが支持している政党のうち、もっとも支持する政党をお知らせください。(ひとつだけ)

1 自由民主党	43.13	6 日本維新の会	18.28
2 公明党	5.17	7 社会民主党	2.02
3 立憲民主党	15.64	8 希望の党	1.01
4 国民民主党	4.04	9 沖縄社会大衆党	1.13
5 日本共産党	6.18	10 れいわ新選組	3.40

問12 あなたは今回の参議院選挙（7月21日投票）で、以下の争点のうち、どれを**重視する**予定ですか。あてはまるものをすべてお知らせください。（いくつでも）

1. 景気	49.63	9. 北朝鮮拉致	10.37
2. 雇用	27.08	10. 北方領土・対ロシア交渉	8.26
3. 消費税引き上げ	42.67	11. 新たな日米貿易協定	9.75
4. 幼児教育・保育・高等教育無償化	24.72	12. 外交政策全般	15.84
5. 年金	57.08	13. 陸上イージスの配備	4.84
6. 財政再建	27.39	14. 日韓関係	13.60
7. 憲法改正	20.37	15. 原子力発電所の稼働	15.40
8. 沖縄基地	8.26	16. 震災復興	18.63
		17. あてはまるものはない	11.43

<問12で、1～16のいずれかに回答があった人に提示。問12で17の回答者には本問は提示しない>（n=1,426）

問13 あなたが今回の参議院選挙の投票の際、**もっとも重視する**予定の争点をお知らせください。（ひとつだけ）

1. 景気	18.93	9. 北朝鮮拉致	0.63
2. 雇用	5.75	10. 北方領土・対ロシア交渉	0.49
3. 消費税引き上げ	17.32	11. 新たな日米貿易協定	0.70
4. 幼児教育・保育・高等教育無償化	10.17	12. 外交政策全般	2.73
5. 年金	21.95	13. 陸上イージスの配備	0.28
6. 財政再建	8.70	14. 日韓関係	1.61
7. 憲法改正	5.61	15. 原子力発電所の稼働	2.73
8. 沖縄基地	0.91	16. 震災復興	1.47

問14 あなたは下記のことからについてどのようにお考えですか。もっともあてはまるものをお答えください。（それぞれひとつだけ）

	賛成	やや賛成	どちらでもない	やや反対	反対
1. 消費税引き上げ	6.65	13.48	25.71	19.94	34.22
2. 教育の無償化	29.63	28.63	26.52	9.94	5.28
3. 年金支給年齢の引き上げ	5.22	11.06	36.58	22.98	24.16
4. 子育て支援策の拡充	32.92	33.54	24.97	5.09	3.48
5. 社会保障（年金、医療、介護等）の拡充	33.42	37.33	23.48	4.41	1.37
6. 外国との経済連携協定の締結	11.68	29.57	51.61	4.97	2.17
7. 外国人労働者の受け入れ	9.75	25.78	35.53	16.58	12.36
8. 原子力発電所の稼働	9.44	15.34	39.25	14.47	21.49
9. 憲法を変えること	14.53	19.13	38.32	12.36	15.65
10. 普天間基地の辺野古地区への移転	9.88	10.62	56.71	11.37	11.43

問15 国民が刑事裁判に参加し、被告が有罪かどうか、有罪の場合はどのような刑にするかを、裁判官と一緒に決める日本国内の制度は、何と呼ばれているかご存知ですか。（ひとつだけ）

(1) 司法員制度	(2) 調停員制度	(3) 裁判員制度	(4) 陪審員制度	(5) わからない
1.68	1.30	75.65	6.02	15.34

問16 日本国憲法で、国民の権利であり、義務でもあると規定しているのは、どれだと思いますか。（ひとつだけ）

(1) 選挙で投票	(2) 税金を納めること	(3) 働くこと	(4) 裁判を受けること	(5) わからない
27.70	47.70	13.54	1.86	9.19

問17 参議院議員の任期は何年だと思いますか。（ひとつだけ）

(1) 3年	(2) 4年	(3) 5年	(4) 6年	(5) わからない
15.65	20.93	7.76	42.11	13.54

問18 日本の司法制度についておうかがいします。判決に不服のある人は、上級の裁判所に訴えを起こすことを認められています。日本では現在、最大何回まで裁判が受けられると思いますか。（ひとつだけ） ※集計には不使用

(1) 2回	(2) 3回	(3) 4回	(4) 5回	(5) わからない
15.09	49.44	3.29	1.37	30.81

問19 日本の行政についておうかがいします。内閣は行政について、誰に対して責任を負っていると思いますか。(ひとつだけ)

(1) 国会	(2) 官僚	(3) 最高裁判所	(4) 天皇	(5) わからない
61.43	2.98	4.47	2.61	28.51

問20 参議院議員の定数は何人だと思いますか。(ひとつだけ) ※集計には不使用

(1) 198人	(2) 248人	(3) 298人	(4) 348人	(5) わからない
5.40	26.46	11.80	6.89	49.44

問21 消費税の増税・原発稼働・憲法改正について、自由民主党と立憲民主党の立場はどこに位置していると思いますか。それぞれ、消極的な立場に近ければ0、積極的な立場に近ければ6、どちらでもなく中立的な立場の場合は3としてお答えください。

[A] 自由民主党は、どこに位置していると思いますか。

	積極的		中立的			消極的		わからない
	6	5	4	3	2	1	0	
(1) 消費税の10%への増税	50.56	15.40	8.45	7.33	1.74	0.50	1.80	14.22
(2) 原発稼働	33.04	15.90	15.47	13.91	2.61	0.75	1.37	16.96
(3) 憲法への自衛隊の明記	43.54	14.60	11.55	9.94	1.49	0.62	0.68	17.58

[B] 立憲民主党は、どこに位置していると思いますか。

	積極的		中立的			消極的		わからない
	6	5	4	3	2	1	0	
(1) 消費税の10%への増税	3.04	3.29	7.89	18.88	12.36	6.02	20.93	27.58
(2) 原発稼働	1.68	1.93	4.84	18.76	12.73	8.20	23.91	27.95
(3) 憲法への自衛隊の明記	1.55	2.11	5.34	16.77	11.99	7.95	25.53	28.76

問22 普天間基地の移転について、自由民主党と立憲民主党の立場はどこに位置していると思いますか。それぞれ、辺野古地区への移転反対の立場に近ければ0、辺野古地区への移転推進の立場に近ければ6、どちらでもなく中立的な立場の場合は3としてお答えください。

	辺野古地区への移転推進		中立的		辺野古地区への移転反対			わからない
	6	5	4	3	2	1	0	
[A] 自由民主党は、どこに位置していると思いますか。	52.92	9.32	8.07	8.45	0.75	0.37	1.24	18.88
[B] 立憲民主党は、どこに位置していると思いますか。	2.61	1.74	5.65	17.27	10.75	6.46	27.39	28.14

問23 ここにあげるのは、各政党が掲げているキャッチコピー・キャッチフレーズです。どの政党のキャッチコピー・キャッチフレーズかご存知ですか。ご存知の場合、その政党名をお答え下さい。

	主 自	公 明	主 立	主 国	産 日	新 日	そ の	な い
	党 由	党 党	党 憲	党 民	党 共	党 維	他	わ っ
	民	党	民	民	共	会		か
								ら
(1) つくろう、新しい答え。	3.66	1.43	4.72	7.39	0.81	2.17	0.06	79.75
(2) 日本の明日を切り拓く。	18.51	1.99	3.04	2.80	1.37	2.55	0.06	69.69
(3) 小さな声を、聴く力。	1.37	11.86	2.86	3.60	5.65	1.61	0.12	72.92

問24 ここにあげる人物が、どのような政府の役職についているかご存知ですか。ご存知の場合、その職名をお知らせください。

	官 内	財 副	外 務	議 衆	議 参	大 統	大 統	大 統	大 統	国 務	な い
	房 閣	務 総	大 務	長 議	長 議	領 領	領 領	領 領	領 領	連 務	わ っ
	長 官	理 理	大 務	院 院	院 院	リ カ	フ ラ	シ ャ	シ ャ	総 務	か
	官	・	大 務				ン ス	ア	ア	長	ら
(1) 大島理森	0.37	0.68	1.61	17.83	3.60	0.12	0.00	0.06	0.43	75.28	
(2) 菅義偉	72.80	0.93	1.43	0.75	0.87	0.37	0.06	0.00	0.12	22.67	
(3) 麻生太郎	1.68	75.09	11.24	0.93	0.56	0.31	0.25	0.00	0.00	9.94	
(4) アントニオ・グテーレス	0.12	0.25	0.50	0.68	0.50	0.81	1.06	1.37	17.33	77.39	
(5) ドナルド・トランプ	0.19	0.31	0.31	0.31	0.50	95.59	0.50	0.06	0.12	2.11	
(6) エマニュエル・マクロン	0.19	0.25	0.37	0.43	0.31	0.25	66.09	1.74	1.12	29.25	

問25 ここからは、それぞれの質問について、あなたが正しいと考える答えをお答えください。
消費税率は、2019年10月から何%に引き上げられる予定ですか？

(1) 8%	(2) 10%	(3) 12%	(4) 15%	(5) 18%	(6) わからない
0.75	96.21	0.50	0.19	0.06	2.30

問26 今年6月28日・29日に、各国首脳が参加し国際会議が開かれた日本国内の都市はどこですか？

(1) 福岡	(2) 大阪	(3) 横浜	(4) 軽井沢	(5) 仙台	(6) わからない
1.43	90.19	1.30	0.37	0.00	6.71

問27 幼児教育・保育が無償化されるのは、何年の何月からの予定ですか？

(1) 2019年9月	(2) 2019年10月	(3) 2020年1月	(4) 2020年4月	(5) 2020年9月	(6) わからない
1.68	21.99	1.55	18.63	0.62	55.53

問28 今年6月に、年金だけでは不足する老後の備えについて報告書案をとりまとめたのは、下記のどの政府機関の審議会ですか？

(1) 財務省	(2) 金融庁	(3) 厚生労働省	(4) 消費者庁	(5) 経済産業省	(6) わからない
25.28	35.22	12.61	1.43	4.66	20.81

問29 防衛省が導入を予定している地上配備型ミサイル迎撃システム「イージス・アショア」について、配備候補地となっている都道府県はどこですか？

(1) 北海道	(2) 青森県	(3) 秋田県	(4) 新潟県	(5) 島根県	(6) わからない
2.80	7.64	37.83	4.10	3.79	43.85

<問11で「17.あてはまるものはない」の場合は上記1~4のみ提示。最重視争点は、事前問12で1、5、7、12以外>

問30 あなたは下記の争点について、安倍政権の取り組みをどの程度評価していますか。それぞれお答えください。(ひとつだけ)

	かなり 評価する	やや 評価する	どちら でもない	あまり 評価しない	まったく 評価しない	わから ない	n
1. 景気対策	3.35	19.25	26.65	22.05	21.74	6.96	1,610
2. 年金改革	2.11	5.96	27.02	26.52	31.74	6.65	1,610
3. 憲法改正	4.47	16.58	30.81	16.52	22.42	9.19	1,610
4. 外交政策	8.14	26.89	28.63	14.41	13.73	8.20	1,610
5. 最重視争点	8.01	17.54	17.13	17.82	36.33	3.18	724

<最重視争点>

	かなり 評価する	やや 評価する	どちら でもない	あまり 評価しない	まったく 評価しない	わから ない	n
1. 景気	4.81	24.07	28.89	20.74	16.67	4.81	270
2. 雇用	7.32	23.17	19.51	18.29	29.27	2.44	82
3. 消費税引き上げ	0.81	5.67	14.17	19.43	55.47	4.45	247
4. 幼児教育・保育・高等教育無償化	25.52	40.69	15.17	8.28	6.90	3.45	145
5. 年金	1.60	1.92	21.09	25.88	45.37	4.15	313
6. 財政再建	0.81	12.90	25.00	30.65	30.65	0.00	124
7. 憲法改正	15.00	25.00	13.75	15.00	31.25	0.00	80
8. 沖縄基地	0.00	7.69	0.00	23.08	69.23	0.00	13
9. 北朝鮮拉致	22.22	33.33	33.33	0.00	11.11	0.00	9
10. 北方領土・対ロシア交渉	14.29	14.29	14.29	42.86	14.29	0.00	7
11. 新たな日米貿易協定	10.00	10.00	30.00	20.00	30.00	0.00	6
12. 外交政策全般	30.77	33.33	15.38	17.95	2.56	0.00	39
13. 陸上イージスの配備	25.00	25.00	0.00	0.00	25.00	25.00	4
14. 日韓関係	21.74	21.74	21.74	17.39	13.04	4.35	23
15. 原子力発電所の稼働	0.00	5.13	0.00	7.69	84.62	2.56	39
16. 震災復興	9.52	23.81	38.10	4.76	14.29	9.52	21

問31 世の中には、豊かな人も貧しい人もいます。現在の日本の中で、あなたの生活レベルはこの中の9つのどれに入るとお考えですか。1～9の中からお答えください。(1つだけ)

(1) 上の上	0.12
(2) 上の中	1.12
(3) 上の下	4.29
(4) 中の上	15.22
(5) 中の中	25.84
(6) 中の下	24.22
(7) 下の上	13.29
(8) 下の中	9.75
(9) 下の下	6.15

問32 あなたが最後に在籍、または現在在学中の学校は、次のどれですか。あてはまるものを1つだけ選択してください。

1 中学校	1.99
2 高校	25.96
3 短大・高専・専門学校	24.53
4 大学	42.92
5 大学院	4.04
6 その他	0.56

【選挙とメディア利用に関するアンケート調査】(事後調査)

※2019年7月21日20時(投票時間終了直後)に実施。

問1 あなたは、今回の参議院選挙(2019年7月21日投票)で、投票しましたか。(ひとつだけ)

1	投票した	68.82
2	投票しなかった	30.81
3	選挙権がなかった	0.37

<回答者：問1で2(投票しなかった人)>(n=496)

問2 今回の参議院選挙(7月21日投票)で、投票しなかった人におうかがいします。あなたが投票しなかった理由のうち、最もあてはまるものをお知らせください。(ひとつだけ)

1	関心がなかったから	20.77
2	時間がなかったから	21.98
3	選択したい候補者がいなかったから	19.76
4	どの政党・候補者に投票するか判断に迷ったから	6.65
5	面倒だったから	10.28
6	投票しても結果に大きな影響を及ぼすとは思わなかったから	12.90
7	その他(具体的に⇒)	7.66

その他の自由記述

◆本人や家族の体調等

- ・「怪我をして、投票場まで行けなかったから。」(1)、 ・「発熱」(1)、
- ・「前日に家族が入院しそちらに手を取られた」(1)、 ・「体調が悪かった」(1)、
- ・「体調不良で投票に行けなかった」(1)、 ・「介護のため実家にいたから」(1)、
- ・「体調不良でいけなかった」(1)、 ・「身内が亡くなったから」(1)、
- ・「入院中で行けなかった」(1)、 ・「産後だったから」(1)

◆住民票の移動

- ・「大学の寮に住んでいるが住民票を移しておらず、帰省する時間はなかったから。」(1)、
- ・「現住所が自分の住んでいるところから離れているから。」(1)、
- ・「遠方へ単身赴任中なので地元に戻れませんでした」(1)、
- ・「本籍から離れた場所に暮らしているから」(1)、 ・「転居したため」(2)、
- ・「住民票を移していなかったから」(1)、 ・「転居先で選挙権がなかった」(1)

◆政治情勢等

- ・「政治に失望しているから、馬鹿な国民の変な民主主義にウンザリだ」(1)、
- ・「悪いことをするような政治家には投票しない!」(1)、
- ・「参議院は必要ない。人気投票と同じ」(1)、 ・「参院の存在意義に疑問がある」(1)、
- ・「選挙に集中できなかったから」(1)、 ・「参議院はいらん」(1)

◆天候等

- ・「大雨で危険なため外出ができなかった」(1)、
- ・「雨で道が寸断されていた」(1)、 ・「雨が降っていたから。」(1)、
- ・「雨だったから」(1)、 ・「天候不良」(1)、

◆その他(忘れていたなど)

- ・「今日投票日だということに気が付いたのが投票締切時間後だった」(1)、
- ・「ハガキを捨ててしまったから」(1)、 ・「よくわからないから」(1)、
- ・「会場に行けなかった」(1)、 ・「投票券を紛失した」(1)、
- ・「忘れてた」(2)、 ・「なし」(1)、 ・「仕事」(1)

<問1で、1「投票した」を選択した人のみ> (n=1,108)

問3 選挙区選挙は個人名での投票ですが、あなたが、投票した候補者の政党名をお知らせください。(ひとつだけ)
※あなたが投票した候補者を公認している政党名をお答えください。推薦・支持だけの政党は含みません。

1. 自由民主党	36.91	7. 社会民主党	0.81
2. 公明党	4.51	8. れいわ新選組	3.07
3. 立憲民主党	16.43	9. その他の政党【 】	2.71
4. 国民民主党	4.69	10. 無所属	5.32
5. 日本共産党	4.87	11. 政党名は覚えていない	6.86
6. 日本維新の会	10.83	12. 記入していない	2.98

その他の政党自由記述
「NHKから国民を守る会」(24人)、「安楽死を考える会」(2人)、「幸福実現党」(3人)、その他(1人)

<問1で、1「投票した」を選択した人のみ> (n=1,108)

問4 比例代表選挙で、あなたが、投票した政党名をお知らせください。また、個人名で投票した場合でも、その個人が属する政党名をお知らせください。(ひとつだけ)

1. 自由民主党	32.58	7. 社会民主党	1.53
2. 公明党	6.59	8. れいわ新選組	6.86
3. 立憲民主党	16.16	9. その他の政党【 】	3.79
4. 国民民主党	3.97	10. 無所属	1.08
5. 日本共産党	5.05	11. 政党名は覚えていない	4.87
6. 日本維新の会	14.44	12. 記入していない	3.07

※その他の政党のカッコ内は、事後問3(9)で記入した政党を表示。

<問1で、1「投票した」を選択した人のみ> (n=1,108)

問5 政党や候補者に投票するときに、あなたは何を判断の基準にしましたか。もっとも当てはまるものをお知らせください。(ひとつだけ)

1. 候補者の人柄やイメージ	9.12
2. 政党のイメージ	15.88
3. 争点に関する候補者の主張	11.28
4. 争点に関する政党の主張	19.31
5. 国全体の経済状況	8.57
6. 自分自身の生活や暮らし向き	14.44
7. 所属する企業や団体、組合の推薦	3.34
8. 周りの人の意見や評価	3.52
9. 運動員からの働きかけ	1.9
10. その他	2.53
11. 参考にしたものはない	10.11

<問1で、1「投票した」を選択した人のみ> (n=1,108)

問6 今回の参議院議員の選挙区選挙・比例代表選挙のうち、あなたが投票した候補者・政党を決めたのはいつ頃ですか。あてはまるものをお知らせください。(それぞれひとつだけ)

	5月以前	6月 7月3日 (選挙公示日の前)	7月4日 7月13日 (選挙公示日)	7月20日 (投票日の前日)	7月14日 7月20日 (投票日1週間前)	7月21日 (投票日の当日)
1. 選挙区選挙の候補者の選択時期	13.18	8.12	20.31	35.83	22.56	
2. 比例代表選挙の候補者・政党の選択時期	15.88	8.57	17.78	36.28	21.48	

問7 政治に対する以下の項目について、あなたの考えをお知らせください。(それぞれひとつだけ)

	そう思う	そう思う いえば	どちらかと いえない	どちらとも いえない	そう思わない いえば	どちらかと 思わない	そう 思わない
1. 選挙では大勢の人が投票するものだから、自分一人くらい投票してもしなくてもどちらでもかまわない	8.63	17.76	24.35	21.55	27.70		
2. 自分には政府のすることに対して、それを左右する力はない	24.53	29.01	27.58	12.11	6.77		
3. 私は、政治に関わる十分な資質が自分自身にあると考える	9.07	13.79	36.21	21.74	19.19		
4. 政治とか政府とかは、あまりに複雑なので、自分には何をやっているのかよく理解できないことがある	18.51	36.65	24.10	13.79	6.96		
5. 国会議員は、大ざっぱに言って、当選したらすぐ国民のことを考えなくなる	38.63	33.60	21.80	4.29	1.68		
6. 今の日本の政治家は、あまり私たちのことを考えていない	37.89	32.11	23.11	5.16	1.74		

問8 政治や生活に対する以下の項目について、あなたの考えをお知らせください。(それぞれひとつだけ)

	そう思う	やや そう思う	どちらとも いえない	あまり 思わない	そう 思わない
1. 政治に関心がある	13.98	27.33	29.25	17.39	12.05
2. 現在の国内政治に満足している	1.93	9.57	28.45	29.57	30.50
3. 現在の生活に満足している	3.60	20.25	28.32	26.02	21.80
4. いまの景気は良い	1.18	8.88	25.59	33.79	30.56
5. いまの日本は、努力すれば報われる社会である	3.85	15.28	29.69	30.37	20.81
6. いまの日本には、格差が広がっている	40.68	37.52	16.83	3.79	1.18
7. いまの年金制度は維持できない	46.65	29.94	16.77	4.78	1.86
8. 安倍政権を信頼している	5.47	16.40	31.24	19.07	27.83
9. 安倍内閣を支持している	8.01	17.64	30.43	16.09	27.83
10. 与党には政権担当能力がある	9.94	23.23	40.68	14.91	11.24
11. 野党には政権担当能力がある	2.55	6.34	38.32	24.66	28.14
12. いまの日本の政治家は、若い人たちのことを考えて政治をしている	1.61	6.77	28.82	33.79	29.01

問9 あなたはふだん、以下の政党をどの程度支持していますか。(それぞれひとつだけ)

	支持 している	やや支持 している	どちらでもな い	あまり 支持していない	支持 していない	政党名を知 らない
1. 自由民主党	10.68	20.68	31.93	9.44	26.34	0.93
2. 公明党	1.86	5.90	32.17	15.65	43.11	1.30
3. 立憲民主党	4.78	13.29	31.93	13.79	32.17	4.04
4. 国民民主党	1.18	6.89	34.60	18.20	35.16	3.98
5. 日本共産党	2.17	6.96	29.75	15.16	44.41	1.55
6. 日本維新の会	4.60	19.94	36.02	13.66	24.10	1.68
7. 社会民主党	1.12	5.03	32.67	15.84	42.17	3.17
8. 希望の党	0.75	2.36	27.76	17.14	37.83	14.16
9. 沖縄社会大衆党	0.75	1.80	19.01	8.57	20.81	49.07
10. れいわ新選組	2.98	6.46	22.48	12.98	31.80	23.29

<問9で、いずれかの政党に対して「支持している」または「やや支持している」の人数> (n=1,025)

問10 あなたが支持している政党のうち、もっとも支持する政党をお知らせください。(ひとつだけ)

1. 自由民主党	41.66	6. 日本維新の会	18.05
2. 公明党	4.98	7. 社会民主党	1.46
3. 立憲民主党	16.2	8. 希望の党	1.17
4. 国民民主党	3.9	9. 沖縄社会大衆党	0.39
5. 日本共産党	4.68	10. れいわ新選組	7.51

問11 消費税の増税・原発稼働・憲法改正について、自由民主党と立憲民主党の立場はどこに位置していると思いますか。それぞれ、積極的な立場に近ければ6、消極的な立場に近ければ0、どちらでもなく中立的な立場の場合は3としてお答えください。

[A] 自由民主党は、どこに位置していると思いますか。

	積極的		中立的				消極的		わからない
	6	5	4	3	2	1	0		
(1) 消費税の10%への増税	56.02	14.29	7.70	8.14	1.37	1.24	2.73	8.51	
(2) 原発稼働	33.23	16.77	16.27	16.09	2.48	1.24	2.42	11.49	
(3) 憲法への自衛隊の明記	46.65	14.04	11.30	11.37	1.99	0.99	1.55	12.11	

[B] 立憲民主党は、どこに位置していると思いますか。

	積極的		中立的				消極的		わからない
	6	5	4	3	2	1	0		
(1) 消費税の10%への増税	3.54	3.79	8.57	22.67	13.98	8.26	18.70	20.50	
(2) 原発稼働	1.93	2.86	6.27	22.92	15.84	8.57	19.94	21.68	
(3) 憲法への自衛隊の明記	1.99	2.55	4.78	20.56	14.29	9.63	23.11	23.11	

問12 普天間基地の移転について、自由民主党と立憲民主党の立場はどこに位置していると思いますか。それぞれ、辺野古地区への移転推進の立場に近ければ6、辺野古地区への移転反対の立場に近ければ0、どちらでもなく中立的な立場の場合は3としてお答えください。

	辺野古地区への移転推進			中立的		辺野古地区への移転反対		わからない
	6	5	4	3	2	1	0	
[A] 自由民主党は、どこに位置していると思いますか。	52.98	9.88	9.13	9.07	1.74	0.43	0.99	15.78
[B] 立憲民主党は、どこに位置していると思いますか。	1.74	2.98	6.40	21.55	11.06	7.27	22.98	26.02

問13 ここにあげるのは、今回の参議院選挙（7月21日投票）に際して各政党が掲げていた公約・マニフェストです。どの政党のものかご存知ですか。ご存知の場合、その政党名をお答え下さい。

(1) 公約・マニフェストA：

「暮らしからはじまる経済成長へ」「個人の可能性が芽吹く社会へ」「原発ゼロを実現し新エネ・環境立国へ」「透明性の高い『まっとうな政治』へ」「平和を守る現実的な外交へ」

1. 自由民主党	2. 公明党	3. 立憲民主党	4. 国民民主党	5. 日本共産党	6. 日本維新の会	7. その他	8. わからない

(2) 公約・マニフェストB：

「増税の前に身を切る改革」「次の時代を創る成長戦略」「次の時代を創る教育無償化」「未来への希望の再構築」「震災復興を忘れない」「日本の未来を創る憲法改正」「新たな日本の形を作る統治機構改革」「国民の生命と安全を守るための外交と効果的な安全保障」

1. 自由民主党	2. 公明党	3. 立憲民主党	4. 国民民主党	5. 日本共産党	6. 日本維新の会	7. その他	8. わからない

(3) 公約・マニフェストC：

「力強い外交・防衛で、国益を守る」「強い経済で所得をふやす」「誰もが安心、活躍できる人生100年社会をつくる」「最先端をいく元気な地方をつくる」「災害から命・暮らしを守る」「憲法改正を目指す」

1. 自由民主党	2. 公明党	3. 立憲民主党	4. 国民民主党	5. 日本共産党	6. 日本維新の会	7. その他	8. わからない

問14 ここにあげる人物が、どのような政府の役職についているかご存知ですか。ご存知の場合、その職名をお知らせください。

	長官 内閣 官房	財務 大臣 副 総 理・ 大臣	外務 大臣	長 衆 議 院 議	長 参 議 院 議	大 統 領 ア メ リ カ	大 統 領 フ ラ ン ス	統 領 ロ シ ア 大	総 長 国 連 事 務	い わ か ら な
(1) 河野太郎	1.61	1.18	64.53	2.42	0.62	0.06	0.00	0.12	0.31	29.13
(2) ウラジーミル・プーチン	0.75	0.25	0.31	0.12	0.56	0.62	1.49	89.32	0.19	6.40

※(1)外務大臣、(2)ロシア大統領

問15 今年6月28日・29日に、日本国内で各国首脳が参加し開かれた国際会議の名前は？

(1) G 2	(2) G 7	(3) G 8	(4) G 2 0	(5) G 2 5	(6) わからない
0.19	7.52	1.61	85.09	0.31	5.28

問16 ロシアと日本の平和条約交渉に関連して、北方領土の4島に属する島の名前は？

(1) 沖ノ鳥島	(2) 尖閣諸島	(3) 竹島	(4) 樺太	(5) 色丹島	(6) わからない
2.11	8.57	4.16	10.75	64.78	9.63

問17 今年6月に金融庁の審議会がまとめた報告書で、年金だけでは退職後30年間で不足するとされた金額は？

(1)1200万円	(2)1500万円	(3)1800万円	(4)2000万円	(5)2500万円	(6)わからない
0.68	0.43	0.62	87.08	1.43	9.75

問18 憲法改正の議論の対象となっており、日本国が戦力を保持しないことを定めている憲法の条文は？

(1) 第9条	(2) 第12条	(3) 第13条	(4) 第29条	(5) 第96条	(6) わからない
81.74	0.87	0.87	1.55	0.43	14.53

問19 衆参両院のそれぞれで、憲法改正の発議に必要な本会議の議席数は？

(1)4分の1以上	(2)3分の1以上	(3)2分の1以上	(4)3分の2以上	(5)5分の4以上	(6)わからない
1.74	6.65	5.59	64.72	0.25	21.06

問20 あなたは今回の参議院選挙(7月21日投票)で、以下の争点のうち、どれを**重視しましたか**。あてはまるものをすべてお知らせください。(いくつでも)

1. 景気	34.22	9. 北朝鮮拉致	4.22
2. 雇用	17.83	10. 北方領土・対ロシア交渉	3.48
3. 消費税引き上げ	34.47	11. 新たな日米貿易協定	2.80
4. 幼児教育・保育・高等教育無償化	16.15	12. 外交政策全般	11.37
5. 年金	39.44	13. 陸上イージスの配備	3.04
6. 財政再建	16.40	14. 日韓関係	8.20
7. 憲法改正	21.12	15. 原子力発電所の稼働	11.86
8. 沖縄基地	4.72	16. 震災復興	7.20
	34.22	17. あてはまるものはない	23.29

<問20で、1~16のいずれかに回答があった人> (n=1,235)

問21 あなたが今回の参議院選挙(7月21日投票)で、**もっとも重視した**争点をお知らせください。(ひとつだけ)

1. 景気	18.46	9. 北朝鮮拉致	0.49
2. 雇用	5.02	10. 北方領土・対ロシア交渉	0.24
3. 消費税引き上げ	19.35	11. 新たな日米貿易協定	0.24
4. 幼児教育・保育・高等教育無償化	7.85	12. 外交政策全般	4.78
5. 年金	18.87	13. 陸上イージスの配備	0.24
6. 財政再建	6.48	14. 日韓関係	2.35
7. 憲法改正	10.53	15. 原子力発電所の稼働	3.48
8. 沖縄基地	0.89	16. 震災復興	0.73

問22 あなたは今回の参議院選挙の選挙運動期間中(7月4日～7月20日)、以下の争点に関する情報を見たり聞いたりしましたか。それぞれお答えください。また、見たり聞いたりしたことのある争点について、どこで接したのかお答えください。(いくつでも)

	見たり聞いたりした						見たり聞いたりしていない	n
	テレビ	新聞	インターネット・ニュースアプリ(Yahoo!ニュースなど)	SNS	選挙に関連した家族・友人との会話	その他の情報源		
1. 景気対策	57.27	21.74	18.14	5.40	3.42	2.17	29.01	1,610
2. 年金改革	64.78	23.11	20.31	6.65	4.53	2.67	22.17	1,610
3. 憲法改正	60.50	21.30	16.83	5.71	3.85	2.86	27.02	1,610
4. 外交政策	55.65	20.56	18.70	5.96	2.73	2.30	31.93	1,610
5. 最重要争点	67.35	22.39	25.30	10.09	6.67	5.81	14.02	585

※問21で1、5、7、12以外の場合
 <最重要争点>

	見たり聞いたりした							見たり聞いたりしていない	n
	テレビ	新聞	インターネット・ニュースアプリ	SNS	選挙に関連した家族・友人との会話	その他の情報源			
1. 景気	65.79	31.58	27.19	7.46	6.58	2.63	15.79	228	
2. 雇用	53.23	17.74	24.19	9.68	6.45	8.06	25.81	62	
3. 消費税引き上げ	71.97	20.08	22.18	9.62	5.86	3.77	11.72	239	
4. 幼児教育・保育・高等教育無償化	73.20	17.53	25.77	12.37	9.28	7.22	13.40	97	
5. 年金	79.40	27.90	19.31	5.15	3.43	1.72	8.58	233	
6. 財政再建	73.75	33.75	26.25	7.50	3.75	5.00	15.00	80	
7. 憲法改正	79.23	35.38	28.46	6.92	10.00	5.38	7.69	130	
8. 沖縄基地	45.45	18.18	27.27	36.36	18.18	0.00	18.18	11	
9. 北朝鮮拉致	33.33	33.33	33.33	33.33	16.67	0.00	0.00	6	
10. 北方領土・対ロシア交渉	66.67	33.33	0.00	0.00	0.00	0.00	33.33	3	
11. 新たな日米貿易協定	66.67	0.00	33.33	0.00	0.00	0.00	0.00	3	
12. 外交政策全般	74.58	38.98	38.98	11.86	5.08	1.69	11.86	59	
13. 陸上イージスの配備	66.67	0.00	0.00	33.33	33.33	0.00	0.00	3	
14. 日韓関係	65.52	31.03	58.62	6.90	13.79	17.24	3.45	29	
15. 原子力発電所の稼働	48.84	25.58	25.58	4.65	2.33	9.30	18.60	43	
16. 震災復興	66.67	33.33	0.00	11.11	0.00	0.00	11.11	9	

問23 あなたは下記の争点について、安倍政権の取り組みをどの程度評価していますか。それぞれお答えください。

	かなり 評価する	やや 評価する	どちら でもない	あまり 評価しない	まったく 評価しない	わから ない	n
1. 景気対策	3.04	19.13	29.38	21.43	19.50	7.52	1,610
2. 年金改革	1.37	7.58	26.27	27.52	30.12	7.14	1,610
3. 憲法改正	4.84	13.11	32.48	16.83	23.98	8.76	1,610
4. 外交政策	8.76	25.96	28.51	15.84	12.73	8.20	1,610
5. 最重視争点	5.98	17.95	19.32	16.75	36.92	3.08	585

<最重視争点>

	かなり 評価する	やや 評価する	どちら でもない	あまり 評価しない	まったく 評価しない	わから ない	n
1. 景気	7.02	25.44	22.22	17.11	15.79	1.75	228
2. 雇用	1.61	12.90	32.89	14.52	45.16	3.23	62
3. 消費税引き上げ	2.93	7.95	22.58	18.41	53.97	2.51	239
4. 幼児教育・保育・高等教育無償化	14.43	34.02	14.23	9.28	7.22	9.28	97
5. 年金	0.86	5.58	25.77	31.76	35.62	2.15	233
6. 財政再建	2.50	25.00	24.03	26.25	21.25	1.25	80
7. 憲法改正	18.46	10.77	23.75	8.46	46.92	1.54	130
8. 沖縄基地	0.00	0.00	13.85	27.27	18.18	0.00	11
9. 北朝鮮拉致	0.00	50.00	54.55	16.67	0.00	0.00	6
10. 北方領土・対ロシア交渉	0.00	66.67	33.33	0.00	0.00	0.00	3
11. 新たな日米貿易協定	0.00	33.33	33.33	0.00	0.00	0.00	3
12. 外交政策全般	30.51	54.24	66.67	3.39	3.39	0.00	59
13. 陸上イージスの配備	0.00	66.67	8.47	33.33	0.00	0.00	3
14. 日韓関係	37.93	0.00	6.90	6.90	10.34	0.00	29
15. 原子力発電所の稼働	0.00	37.93	13.95	16.28	60.47	0.00	43
16. 震災復興	0.00	9.30	22.22	11.11	44.44	0.00	9

問24 あなたは下記のことがらについてどのようにお考えですか。もっともあてはまるものをお答えください。(それぞれひとつだけ)

	賛成	やや 賛成	どちらでも ない	やや 反対	反対
1. 消費税引き上げ	6.96	16.02	24.84	21.49	30.68
2. 教育の無償化	28.51	28.88	27.02	9.94	5.65
3. 年金支給年齢の引き上げ	4.84	12.92	37.58	22.36	22.30
4. 子育て支援策の拡充	30.87	34.04	27.20	4.53	3.35
5. 社会保障（年金、医療、介護等）の拡充	29.07	37.58	25.16	6.09	2.11
6. 外国との経済連携協定の締結	10.50	32.67	49.01	5.03	2.80
7. 外国人労働者の受け入れ	9.01	25.96	35.09	18.26	11.68
8. 原子力発電所の稼働	9.07	17.70	35.59	15.78	21.86
9. 憲法を変えること	13.48	18.51	36.40	14.22	17.39
10. 普天間基地の辺野古地区への移転	11.30	10.50	53.23	12.48	12.48

問25 あなたは今回の参議院選挙の選挙運動期間中(7月4日～7月20日)、以下のメディアで選挙に関する情報を何回くらい見たり聞いたりしましたか。(それぞれひとつだけ)

	1 ほぼ毎日	2 週に数回	3 数回 選挙運動 期間中に	4 1回 選挙運動 期間中に	5 見ても いたく まったく
1. テレビ	31.86	25.59	17.52	5.22	19.81
2. 新聞	19.57	11.61	10.56	5.40	52.86
3. 政党・候補者のポスター・パンフレット	10.06	15.71	26.96	11.49	35.78
4. 政党・候補者の新聞広告・テレビ広告	4.84	14.04	20.68	8.45	51.99
5. 政党・候補者の街頭演説・宣伝車	4.22	12.48	25.53	10.19	47.58
6. 政党・候補者のウェブサイト(ブログを含む)	1.86	4.47	8.01	5.03	80.62
7. 政党・候補者が投稿したSNS	2.67	4.41	7.08	3.79	82.05
8. 政党・候補者のメール・メールマガジン	1.12	2.67	4.04	2.55	89.63
9. 政党・候補者のネット広告	1.99	4.78	7.64	3.91	81.68
10. 政党・候補者のネット動画	1.86	3.98	6.71	4.04	83.42
11. 友人・知人が投稿したSNS	2.24	4.29	5.59	3.73	84.16
12. インターネットのニュースサイト・ニュースアプリ(Yahoo!ニュースなど)	15.03	17.14	14.72	5.16	47.95
13. まとめサイト(NAVERまとめなど)	2.86	8.14	5.40	3.42	80.19
14. 選挙公報	1.37	5.34	12.36	19.01	61.93
15. 選挙に関連した家族との会話	2.67	7.95	19.50	13.85	56.02
16. 選挙に関連した友人との会話	0.99	4.66	9.32	8.45	76.58
17. 政党集会・市民集会	0.81	2.55	3.66	3.91	89.07
18. メディアを問わず世論調査	1.06	6.27	10.87	7.70	74.10
19. 選挙についての検索結果(Googleなどで)	1.86	5.84	10.93	7.45	73.91

<Nはそれぞれ問25で選挙運動期間中に1回以上接触した人>

問26 今回の参議院選挙の選挙運動期間中(7月4日～7月20日)、選挙に関してあなたが利用した情報源は、どの程度、役に立ちましたか。(それぞれひとつだけ)

	1 役に立っ	2 やや役に 立った	3 あまり役に 立たな かった	4 役に立 たな かった	n
1. テレビ	16.34	49.50	25.33	8.83	1,291
2. 新聞	20.29	51.78	22.66	5.27	759
3. 政党・候補者のポスター・パンフレット	5.80	30.46	42.55	21.18	1,034
4. 政党・候補者の新聞広告・テレビ広告	5.43	28.98	43.21	22.38	773
5. 政党・候補者の街頭演説・宣伝車	4.86	19.31	41.59	34.24	844
6. 政党・候補者のウェブサイト(ブログを含む)	20.19	39.42	27.56	12.82	312
7. 政党・候補者が投稿したSNS	19.72	38.75	29.41	12.11	289
8. 政党・候補者のメール、メールマガジン	14.97	28.74	40.72	15.57	167
9. 政党・候補者のネット広告	10.51	29.49	38.31	21.69	295
10. 政党・候補者のネット動画	17.98	38.20	30.71	13.11	267
11. 友人・知人が投稿したSNS	15.29	36.47	36.47	11.76	255
12. インターネットのニュースサイト・ニュースアプリ(Yahoo!ニュースなど)	15.51	48.21	25.30	10.98	838
13. まとめサイト(NAVERまとめなど)	10.97	44.20	35.11	9.72	319
14. 選挙公報	14.36	43.23	31.16	11.26	613
15. 選挙に関連した家族との会話	12.43	46.61	29.52	11.44	708
16. 選挙に関連した友人との会話	12.20	44.03	33.42	10.34	377
17. 政党集会・市民集会	9.66	41.48	34.09	14.77	176
18. メディアを問わず世論調査	8.63	40.05	39.09	12.23	417
19. 選挙についての検索結果(Googleなどで)	17.62	48.33	25.71	8.33	420

<Nはそれぞれ問 25 で選挙運動期間中に 1 回以上接触した人>

問27 今回の参議院選挙の選挙運動期間中（7月4日～7月20日）、選挙に関してあなたが利用した情報源は、どの程度、信頼できましたか。（それぞれひとつだけ）

	1 た 信 頼 で き	2 で や や 信 頼 で き た	3 か 頼 で き な か つ た	4 あ ま り 信 頼 で き な か つ た	n
1. テレビ	13.01	54.38	25.41	7.20	1,291
2. 新聞	18.71	57.18	19.37	4.74	759
3. 政党・候補者のポスター・パンフレット	6.29	35.88	41.88	15.96	1,034
4. 政党・候補者の新聞広告・テレビ広告	7.12	34.93	44.11	13.84	773
5. 政党・候補者の街頭演説・宣伝車	5.81	25.83	47.87	20.50	844
6. 政党・候補者のウェブサイト（ブログを含む）	15.38	41.35	33.97	9.29	312
7. 政党・候補者が投稿した SNS	14.19	43.60	30.45	11.76	289
8. 政党・候補者のメール、メールマガジン	8.98	40.72	38.32	11.98	167
9. 政党・候補者のネット広告	8.81	34.24	43.05	13.90	295
10. 政党・候補者のネット動画	12.73	44.19	31.09	11.99	267
11. 友人・知人が投稿した SNS	14.12	44.71	31.76	9.41	255
12. インターネットのニュースサイト・ニュースアプリ（Yahoo!ニュースなど）	10.26	55.85	28.52	5.37	838
13. まとめサイト（NAVER まとめなど）	10.34	45.77	34.48	9.40	319
14. 選挙公報	13.38	52.37	26.43	7.83	613
15. 選挙に関連した家族との会話	15.40	57.49	22.46	4.66	708
16. 選挙に関連した友人との会話	11.41	52.79	29.44	6.37	377
17. 政党集会・市民集会	13.07	45.45	28.98	12.50	176
18. メディアを問わず世論調査	6.95	49.40	37.17	6.47	417
19. 選挙についての検索結果（Googleなどで）	14.52	52.14	29.29	4.05	420

問28 あなたは、次の(1)～(4)のメディアの情報を、どの程度、**信頼**できますか。それぞれについて、1～5の中から1つずつ○をつけてください。なお、利用していないメディアについては、大体の印象でお答えください。（それぞれひとつだけ）

	非常に 信頼できる	ある程度 信頼できる	どちらとも いえない	あまり 信頼できない	まったく 信頼できない
1. テレビ	4.60	45.53	30.06	12.24	7.58
2. 新聞	5.78	45.78	31.86	9.57	7.02
3. インターネットのニュースサイト・ ニュースアプリ（Yahoo!ニュースなど）	3.73	31.43	44.16	15.47	5.22
4. SNS上の情報	2.11	11.80	43.17	29.01	13.91

<Nは問 25 (1) で選挙運動期間中に 1 回以上接触した人> (n=1,291)

問29 あなたは今回の参議院選挙の選挙運動期間中（7月4日～7月20日）、以下のテレビで**選挙に関する情報**を何回くらい見たり聞いたりしましたか。（それぞれひとつだけ）

	1 ほ ぼ 毎 日	2 週 に 数 回	3 数 回 選 挙 中 に 動 期 間 中 に 動	4 1 回 選 挙 中 に 動 期 間 中 に 動	5 い 見 ま て つ た な く 見 た な く
1. NHK の朝のニュース（10時台まで）	11.85	12.78	11.54	4.65	59.18
2. NHK の昼のニュース（11時から15時台まで）	4.18	10.22	9.53	5.58	70.49
3. NHK の夕方のニュース（16時から18時台まで）	5.58	12.32	11.70	6.35	64.06
4. NHK の夜のニュース（19時以降）	10.61	16.19	13.94	7.28	51.98
5. 民放の朝のニュース（10時台まで）	20.06	22.00	12.55	7.05	38.34
6. 民放の昼のニュース（11時から15時台まで）	8.29	14.25	13.71	5.58	58.17
7. 民放の夕方のニュース（16時から18時台まで）	12.94	19.21	15.88	6.58	45.39
8. 民放の夜のニュース（19時以降）	13.79	22.31	19.05	7.75	37.10

<Nは問 25 (2) で選挙運動期間中に1回以上接触した人> (n=759)

問30 あなたが、ふだん読んでいる新聞(紙媒体)について、以下から当てはまるものを教えてください。(いくつでも)
※インターネットのニュースサイト・ニュースアプリは除きます。

1. 読売新聞	25.82	7. 北海道新聞	5.53
2. 朝日新聞	20.95	8. 西日本新聞	2.37
3. 毎日新聞	6.46	9. 中国新聞	3.69
4. 日本経済新聞	14.36	10. 神戸新聞	1.58
5. 中日新聞	9.22	11. 東京新聞	1.98
6. 産経新聞	3.95	12. その他の新聞【 】	20.82
その他：地方紙(126人)、スポーツ紙(7人)、その他(11人)、なし(14人)			

問31 あなたはふだん、新聞を1日に平均、何分くらい読んでいますか。以下の新聞について、それぞれお答えください。

	1日あたり読んでいる時間	標準偏差	n
1. 読売新聞	約 21.73 分	17.78	195
2. 朝日新聞	約 21.72 分	16.73	159
3. 毎日新聞	約 19.73 分	22.58	49
4. 日本経済新聞	約 23.05 分	18.23	107
5. 中日新聞	約 17.01 分	12.18	70
6. 産経新聞	約 21.63 分	14.37	30
7. 北海道新聞	約 21.02 分	20.00	42
8. 西日本新聞	約 16.28 分	8.29	18
9. 神戸新聞	約 21.07 分	16.58	28
10. 中国新聞	約 13.33 分	13.54	12
11. 東京新聞	約 17.33 分	12.52	15
12. その他の新聞	約 15.20 分	13.17	158

問32 あなたは今回の参議院選挙の選挙運動期間中(7月4日~7月20日)、以下のSNSで選挙に関する情報を何回くらい見たり聞いたりしましたか。(それぞれひとつだけ)
※アカウントの有無は問いません。

	1 ほ ぼ 毎 日	2 週 に 数 回	3 選 挙 運 動 期 間 中 に 数 回	4 選 挙 運 動 期 間 中 に 1 回	5 見 て い な く ま った た く
1. LINE(ライン) ※LINEニュースを除く	9.32	6.46	4.16	3.48	76.58
2. Facebook(フェイスブック)	3.29	3.79	3.54	2.73	86.65
3. Twitter(ツイッター)	7.08	5.96	7.08	3.42	76.46
4. Instagram(インスタグラム)	3.79	3.60	2.67	2.30	87.64
5. YouTube(ユーチューブ)	6.89	6.71	5.65	4.16	76.58
6. ニコニコ動画	1.37	2.48	1.86	1.80	92.48

<Nは問 25 (12) で選挙期間中に1回以上接触した人> (n=838)

問33 あなたは今回の参議院選挙の選挙運動期間中(7月4日~7月20日)、以下のポータルサイト・ニュースサイト・アプリで**選挙に関する情報**を何回くらい見たり聞いたりしましたか。(それぞれひとつだけ)

※同じメディアでポータル・ニュースサイトとアプリの両方がある場合、どちらからの接触でも構いません。

※有料・無料は不問です。また、アカウント有無も不問です。

※他のウェブサイトやアプリ上ではなく、直接そのウェブサイトやアプリに接触した回数を教えてください。

	1 ほぼ 毎日	2 週に 数回	3 数回 選挙 期間 中に	4 1回 選挙 期間 中に	5 見 て い な く ま っ た く
1. Yahoo!ニュース (ヤフーニュース)	29.24	21.12	22.32	7.28	20.05
2. LINE NEWS (ラインニュース)	10.02	12.17	12.89	6.21	58.71
3. SmartNews (スマートニュース)	7.52	10.14	7.04	5.01	70.29
4. Gunosy (グノシー)	3.58	6.09	4.42	4.06	81.86
5. Google ニュース (グーグルニュース)	6.44	11.69	9.67	7.76	64.44
6. msn ニュース (エムエスエヌニュース)・Microsoft ニュース (マイクロソフトニュース)	2.98	5.73	5.49	2.98	82.82
7. NewsPicks (ニューズピックス)	0.95	3.22	4.89	2.98	87.95
8. 朝日新聞デジタル	1.79	4.89	7.16	4.30	81.86
9. 日経電子版	4.06	5.61	6.21	4.77	79.36
10. 読売新聞オンライン	2.15	4.42	6.32	3.46	83.65
11. 毎日新聞ニュース	1.91	4.65	5.61	3.22	84.61
12. 産経ニュース	2.15	3.94	7.28	3.82	82.82

<ウェブサイトのNは問 25(6)、ソーシャルメディアのNは問 25(7)で、それぞれ選挙期間中に1回以上接触した人>

問34 あなたは、今回の参議院選挙の選挙運動期間中(7月4日~7月20日)に、政党のウェブサイト(ブログを含む)、SNSを見たことがありますか。あてはまるものをすべて選択してください。(いくつでも)

	政党のウェブサイト (ブログを含む)	政党が投稿した SNS
n	312	289
1. 自由民主党	34.29	30.10
2. 公明党	10.58	9.69
3. 立憲民主党	23.72	17.65
4. 国民民主党	12.18	11.07
5. 日本共産党	10.26	8.65
6. 日本維新の会	17.63	12.46
7. 社会民主党	3.85	3.11
8. れいわ新選組	10.58	14.19
9. その他の政党	2.24	1.38
10. この中で見たものはない	40.38	41.52

<Nは問 25(6) (ウェブサイト)、または問 25(7) (SNS) で選挙期間中に1回以上接触した人> (n=384)

問35 あなたは、今回の参議院選挙の選挙運動期間中(7月4日~7月20日)に、候補者のウェブサイト、または SNS を見ましたか。あてはまるものを選択してください。(ひとつだけ)

よく見た	たまに見た	ほとんど見なかった	まったく見なかった
10.68	33.85	28.13	27.34

問36 あなたは今回の参議院選挙の選挙運動期間中（7月4日～7月20日）、選挙に関連して、SNS上で以下の話題を見たことがありますか。あてはまるものをすべて選択してください。（いくつでも）
※ニュースサイトや他の投稿へのリンクを含みます。

1. 政党に関する話題	43.17
2. 党首に関する話題	12.73
3. 候補者に関する話題	24.84
4. 争点に関する話題	20.50
5. 街頭演説や演説会に関する話題	11.18
6. その他の選挙に関する話題	20.87

<Nは問 25 (6) ～ (13)、(19) のいずれかに選挙期間中に1回以上接触した人> (n=618)

問37 あなたは今回の衆議院選挙期間中、政党や候補者について、インターネット上でフェイクニュースを見たことがありますか？（フェイクニュースとは、明らかに虚偽やデマと思われる情報のことを指します。マスメディア等で報道されてから知ったものは除きます）。（ひとつだけ）また、(1)と答えた人は、見た具体的なフェイクニュースの内容を教えてください。

1. 見た	2.32	※見た人の具体的なフェイクニュースの内容は割愛
2. 見ていない	68.25	
3. わからない	29.44	

以上